

静岡の“みちサービス”の向上を目指して

平成17年度 達成度報告書
平成18年度 業績計画書

—道路行政マネジメントの実践—



国土交通省
(静岡国道事務所/沼津河川国道事務所/浜松河川国道事務所)
静岡県
静岡市

(1) 成果主義に基づく道路行政マネジメントの確立

◆成果を重視した道路整備を進めます。

これまでの道路整備は、社会・経済を支える社会基盤としての課題である絶対的な量の不足を解消するため、道路の延長を伸ばすという量的ストックの拡大を主な目的として行われてきました。しかし、少子高齢化社会が進み、日本社会も成熟化するなか、今後の道路整備は、既存の道路空間を活用することも視野に、**より効果的・効率的に進めていく必要があります**、このため、**ユーザー指向で成果を重視した新たな道路整備への転換**が重要となります。

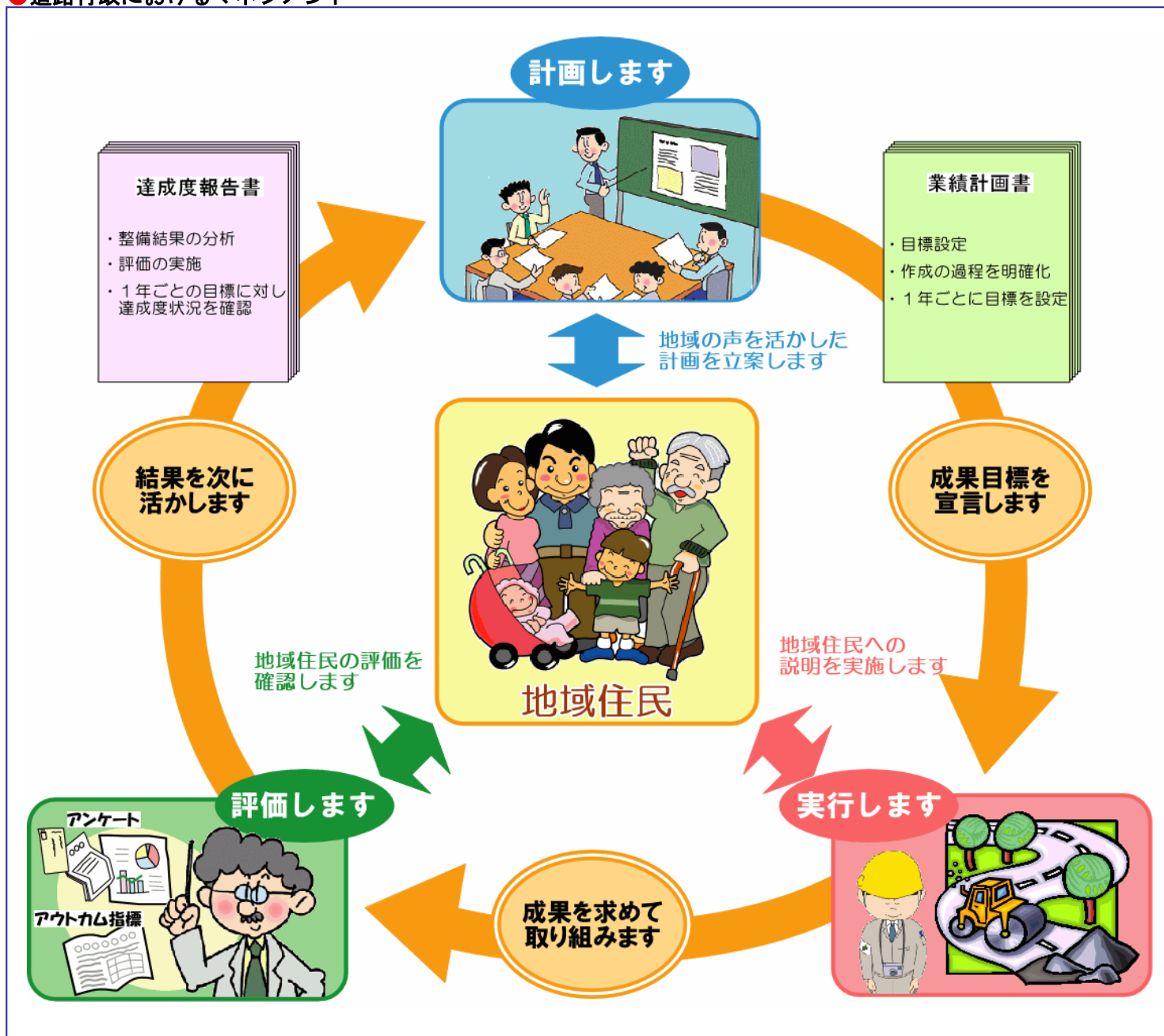
◆静岡県では「道路行政マネジメント」を既に導入し、実践しています。

このような状況のなか、静岡県では、国土交通省（静岡国道事務所、浜松河川国道事務所、沼津河川国道事務所）と静岡県・静岡市が連携して、**平成15年度から新たな道路行政マネジメントシステムを導入**しております。このマネジメントシステムは、事業の成果を反映する指標を用いて、年度毎に業績を評価し事業執行に反映するとともに、道路行政の透明性の向上・効率性の向上を目指すものです。

◆地域住民の皆様との対話を進めます。

道路行政マネジメントシステムでは、地域の声を活かした計画づくりを推進し、年度毎に業績評価の効果を公表することとしております。このように、**地域の皆様との対話**を図りながら、**さらなる成果志向型行政の充実**を図ってまいります。

●道路行政におけるマネジメント



(2) “しずおか”のみちづくりの基本計画

●静岡県総合計画「魅力ある“しずおか”2010年戦略プラン—後期5年計画—」

基本理念	「富国有徳 創知協働」の魅力ある地域づくり	
具体的将来像	多彩な夢の実現に挑戦できる「魅力ある“しずおか”」の県民生活	
基本目標	豊かな快適空間と有徳の志が織り成す「魅力ある“しずおか”」の実現	
基本方向	環境	「環境の世紀」を拓く“持続可能な社会”づくりを進める
	安心	健康で心ふれあう“安心社会”づくりを進める
	安全	地震災害、事故、犯罪等に備えた“安全社会”づくりを進める
	産業	独創性のある“元気な産業”づくりを進める
	交流	世界に広がる“出会いと交流”の基盤づくりを進める
	人づくり	未来を拓くために何かができる“意味ある人”づくりを進める
	文化・スポーツ	“多彩な自己実現”の機会づくりを進める

●道づくりのテーマと整備効果を評価する指標

基本理念	「人」が主役の道路づくり・開かれた道路づくり	
具体的将来像	県民くらし満足度日本一を達成する道路づくり	
基本目標	快適に人やものが行き交い、地域が結び合う道路づくりを目指します	

道づくりのテーマ		整備効果を評価する指標	指標のねらい
環境	・環境と調和した道路づくり	夜間騒音要請限度達成率(%)	幹線道路沿道における夜間騒音は、沿道環境や住みやすさの目安となります。
		自動車専用道路交通分担率(%)	自動車専用道路は事故率が低く、CO2排出原単位が小さいため、環境面・安全面・機能面が適正であるかの目安となります。
安心	・くらしの安心を支える道路づくり	第3次救急医療施設への60分到達圏人口カバー率(%)	第3次救急医療施設への60分到達圏は、日常生活で安心できる暮らしが確保されているかの目安となります。
		主要旅客施設周辺道路のバリアフリー化率(%)	主要な旅客施設周辺で、高齢者・障害者が円滑に安心して移動できる歩行空間が整備されているかの目安となります。
安全	・生活の安全を高める道路づくり	死傷事故率(件/億台km・年)	死傷事故の事故発生頻度を表しており、安全な道路環境が整備されているかの目安となります。
		災害時救援ルート確保率(%)	災害時に地域が孤立せずに安全に他地域へ移動できるルートが確保されているかの目安となります。
		緊急輸送道路橋梁耐震化率(%)	災害時にも道路が安全に通行でき、復旧支援活動等が円滑に行えるかの目安となります。
産業交流	・元気な産業を支援する道路づくり ・全国や世界と行き交う道路づくり	渋滞損失時間(千万人時間/年)	静岡県内の県道以上の道路で円滑な道路交通が確保されているかの目安となります。
		路上工事時間(時間/年・km)	渋滞の原因の一つとなる路上工事の縮減への取り組みが行われているかの目安となります。
人づくり文化・スポーツ	・協働による道路づくり ・豊かで潤いに満ちた道路づくり	ホームページアクセス数(万アクセス)	国民のニーズに即した情報提供がなされているかの目安となります

道サービスの達成度と平成18年度の実施方針

アウトカム指標		基準値【年度】 ↓ 目標値【年度】	現在値 目標値 (H17年度末)	平成17年度実施した主な施策
環境	指標-1 夜間の騒音が要請限度を超えている区間の解消を目指します 【夜間騒音要請限度達成率(%)】	70.2%【H14】 ↓ 77.0%【H19】※	達成 75.8% 72.5%	・幹線道路における低騒音舗装等の整備 『延べ12.5km』 ・幹線道路における遮音壁等の設置 『延べ0.1km』
	指標-2 自動車が規格の高い道路を使う割合の増加を目指します 【自動車専用道路交通分担率(%)】	19.6%【H14】 ↓ 21.3%【H19】※	達成 21.3% 19.7%	・有料4バイパス(藤枝、掛川、磐田、浜名)の無料化 ・スマートIC設置(富士川SA、遠州豊田PA)
安心	指標-3 高度医療施設への搬送時間の短縮を目指します 【第3次救急医療施設への60分到達圏人口カバー率(%)】	96.8%【H14】 ↓ 97.3%【H19】	— 97.1% 97.1%	・すれ違い困難区間の現道拡幅やバイパス整備 『9路線』 ・三遠南信自動車道等山間部の新規路線の整備推進
	指標-4 主要駅周辺の道路のバリアフリー化を目指します 【主要旅客施設周辺道路のバリアフリー化率(%)】	18.2%【H14】 ↓ 50.0%【H19】	未達成 24.5% 37.3%	・主要旅客施設周辺道路(8地区)で、道路のバリアフリー化を実施 『延べ3.5km』 ・歩道整備の推進(国道52号・(主)三島富士線・(一)大富藤枝線等)
安全	指標-5 道路交通における死傷事故率の削減を目指します 【死傷事故率(件/億台km・年)】	149.0【H14】 ↓ 134.0【H19】 (件/億台km・年)	未達成 149.0 140.0 (件/億台km・年)	・事故危険箇所や事故多発地点の重点対策(国道1号沼津地区、国道139号富士宮地区等) ・交差点改良『6箇所』
	指標-6 日常活動圏中心都市間に災害に強いルートの確保を目指します 【災害時救援ルート確保率(%)】	37.5%【H14】 ↓ 75.0%【H19】	— 37.5% 37.5%	・すれ違い困難区間や通行規制区間の現道拡幅やバイパス整備 ・三遠南信自動車道等山間部の新規路線の整備推進
	【緊急輸送道路橋梁耐震化率(%)】	51.4%【H14】 ↓ 100.0%【H19】	未達成 75.7% 78.0%	・緊急輸送道路の橋梁の耐震化 『113箇所』
産業交流	指標-7 道路渋滞による損失時間の削減を目指します 【渋滞損失時間(千万人時間/年)】	15.7【H14】 ↓ 14.2【H19】 (千万人時間/年)	達成 14.7 14.8 (千万人時間/年)	・交差点改良 『4箇所』 ・バイパス整備 『静岡バイパス4車線化(唐瀬IC～千代田上土IC):1.9km』 ・現道拡幅『丸子池田線:0.7km』 ・有料4バイパス(藤枝、掛川、磐田、浜名)の無料化 ・スマートIC設置(富士川SA、遠州豊田PA)
	指標-8 路上工事時間の削減を目指します 【路上工事時間(時間/年・km)】	173【H14】 ↓ 120【H19】※ (時間/年・km)	達成 120 127 (時間/年・km)	・道路工事の集約化 ・わかりやすい工事看板の設置
人づくり文化・スポーツ	指標-9 ホームページへのアクセス数向上を目指します 【ホームページアクセス数(万アクセス)】	15【H14】 ↓ 30【H19】 (万アクセス)	達成 29 24 (万アクセス)	・ホームページの改良 ・スマートモビリティ伊豆社会実験等の情報提供

※以下の指標について、平成19年度目標値を再設定しました。

指標-1:H19目標値を達成したことから、H17実績値より1.2%の向上を目指してH19目標値を73.0%→77.0%に修正しました。

指標-2:H19目標値を達成したことから、H17実績値の現状維持を目指してH19目標値を21.0%→21.3%に修正しました。

指標-8:H19目標値を達成したことから、H17実績値の現状維持を目指してH19目標値を127(時間/年・km) → 120(時間/年・km)に修正しました。

平成17年度の達成度報告	平成18年度 of 取組方針	目標値 (H18年度末)	掲載 ページ
幹線道路における低騒音舗装の整備や遮音壁の設置により、目標値を達成することができました。	引き続き、低騒音舗装の整備や遮音壁の設置による騒音対策を進めます。	76.4% ^{※※}	P5
有料4バイパスの無料化を実施した結果、規格の高い道路を使う割合は増加し、中間目標値を達成することができました。	スマートICの本格導入にむけた検討を行い、自動車専用道路の利用を促進します。	21.3% ^{※※}	
中山間部における規格の高い道路の新規開通がなかったため、高度医療施設のカバー圏域に変化はありませんでした。	中山間地域における移動困難箇所の解消や三遠南信自動車道や伊豆縦貫自動車等のネットワークの充実にむけた整備促進を行います。	97.1%	P9
平成17年度に国が定めるバリアフリー化の判定条件が変更され、指標値としては変更前に設定した目標に達成しませんでした。	主要旅客施設や官公庁施設および医療施設等の周辺道路におけるバリアフリー化事業を推進します。	43.6%	
国道1号沼津地区や国道139号富士宮地区等における事故危険箇所や事故多発地点を重点的に対策した結果、死傷事故率は減少しましたが、中間目標値を達成することはできませんでした。	事故危険箇所や事故多発地点の事故対策を重点的に実施します。	137.0 (件/億台km・年)	P13
中山間部における規格の高い道路の新規開通がなかったため、災害時の緊急ルート確保率に変化はありませんでした。	三遠南信自動車道や伊豆縦貫自動車等のネットワークの充実に努めます。	37.5%	
年度内に耐震化が完了しなかった橋梁もあり、耐震化率は中間目標値を達成することはできませんでした。	3年プログラムによる効率的かつ効果的な耐震補強の実施や改築事業とあわせた耐震補強の実施を行います。	89.3%	
有料4バイパスの無料化により渋滞損失時間は大幅に減少し、中間目標値を達成することができました。	平面交差点の立体化等のボトルネック箇所の改善や幹線道路の4車線化等、ハード施策を促進します。 新たに第4次渋滞対策プログラムによる渋滞対策マネジメントを実施します。	14.5 (千万人時間/年)	P17
道路工事が減少したことにより、路上工事時間は減少し、目標値を達成することができました。	道路工事の規制日の調整や年度当初に工程の調整を継続して実施します。	120 ^{※※} (時間/年・km)	
ホームページの改良や情報提供の充実に、ホームページアクセス数は中間目標値を達成しました。	とるば(写真をとるパーキング)、社会実験等の情報提供内容の充実をはかり、ホームページアクセス数の増加を目指します。	30 ^{※※} (万アクセス)	P21

※※以下の指標について、平成18年度目標値を再設定しました。

指標-1・2・8:平成19年度目標値を見直したことから、平成17年実績値と平成19年度目標値との中間値としました。

指標-9:平成17年度実績値が平成18年度の目標値を達成したことから上方修正を行いました。

(1) 静岡県の現況

① 夜間騒音の現況

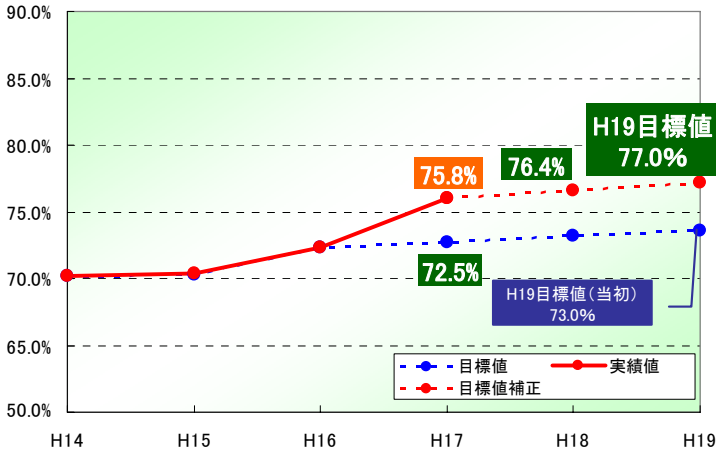
◇平成17年度の夜間騒音要請限度*達成状況は、昨年度から4.6%増加して75.8%*2となり、平成19年度の目標値を達成しました。

◇しかし、依然として市街地部では夜間騒音要請限度超過区間が点在しています。

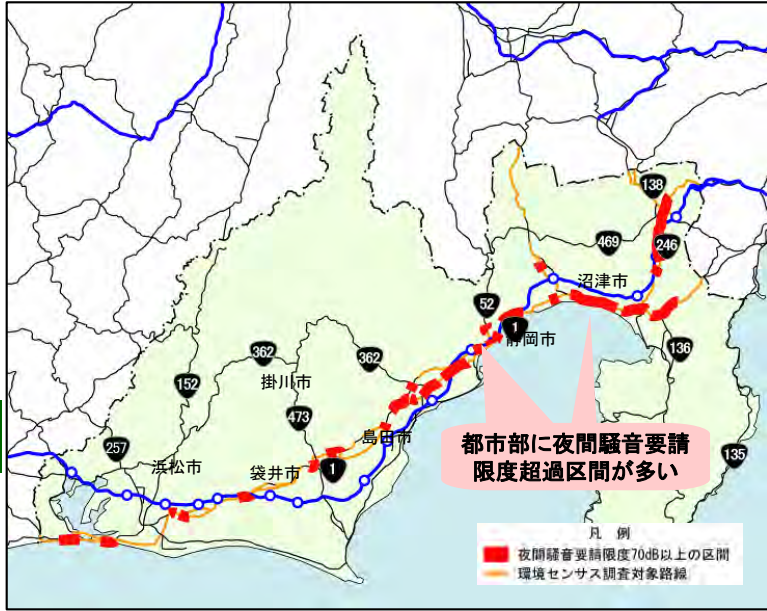
※夜間騒音要請限度:騒音規制法に基づく環境省令で定められた、夜間における自動車騒音レベル(70dB)

※2 直轄国道を対象とし、対象延長は325km

●夜間騒音要請限度達成率の推移



●夜間騒音要請限度(70dB)超過区間



出典:H17年度環境センサス(国土交通省)

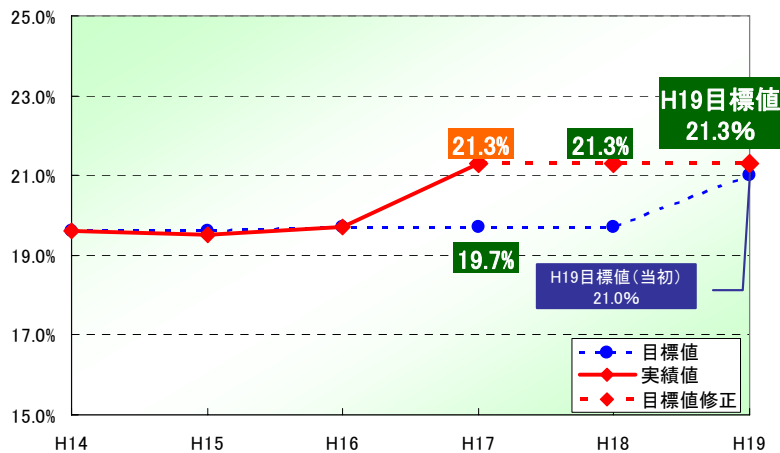
② 自動車専用道路*利用状況

◇静岡県の通過交通量は約61,000台/日となっています。この通過交通が一般道路に流入することで、渋滞の発生・交通事故の増加・沿道騒音の悪化といった問題が発生します。

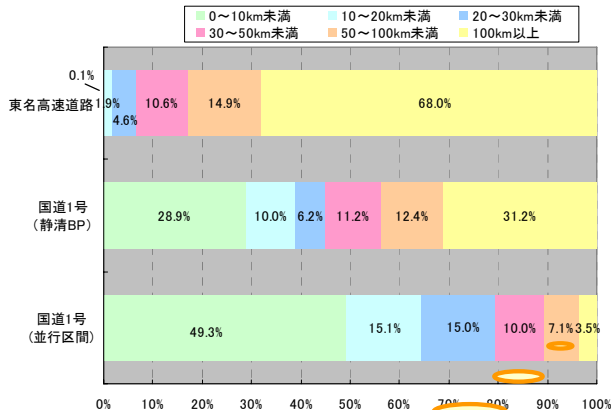
◇この問題を解決するためには、通過交通を適正に自動車専用道路に分担させる必要があります。

※自動車専用道路:自動車のみが通行できる規格の高い道路。

●自動車専用道路の交通分担率の推移



●安倍川断面におけるトリップ長分布



国道1号BPの並行区間にも長距離トリップ交通が多い

●静岡県の都市圏間自動車移動交通量



静岡県の通過交通が一般道に流入することで...
-交通渋滞が発生・交通事故が増加・沿道騒音が悪化

単位:千台/日
出典:平成11年度道路交通センサス

(2) 平成17年度の達成度報告

①平成17年度に実施した施策

- ◇沿道環境対策として道路騒音を低減するために低騒音舗装の整備や遮音壁の設置等を実施しました。
- ◇自動車専用道路の交通分担率を向上させるために、自動車専用道路の利便性の向上を図りました。

●平成17年度に実施した主な対策

目的	施策	内容
沿道環境の改善	低騒音舗装の整備	延べ12.5km
	遮音壁の設置	延べ0.1km
自動車専用道路の利便性向上	スマートIC社会実験	富士川SA 遠州豊田PA

②平成17年度施策の評価

- ◇平成17年度に事業を実施した箇所では、夜間要請限度を上回っていた9箇所のうち、6箇所で対策後に要請限度を下回りました。

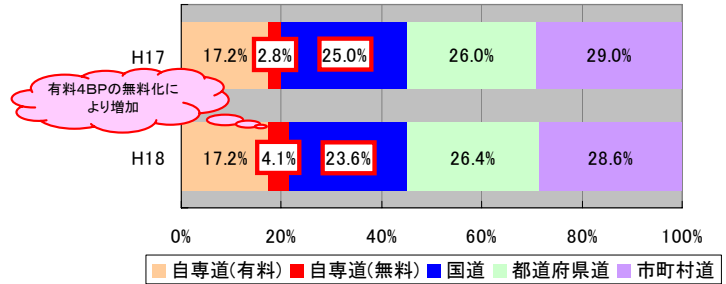
●平成17年度の沿道環境対策箇所の効果



出典：H17年環境センサス

- ◇国道1号有料4バイパスの無料化により自動車専用道路の無料区間の利用が増加し、自動車専用道路分担率の増加に繋がりました。

●道路種別別の分担率の変化



出典：H16・17年度国土交通省データ

平成17年度の取り組み事例

～夜間要請限度超過区間の対策【低騒音舗装による改善】

- ◇国道1号の夜間要請限度を上回っている箇所を中心に低騒音舗装の整備に取り組みました。

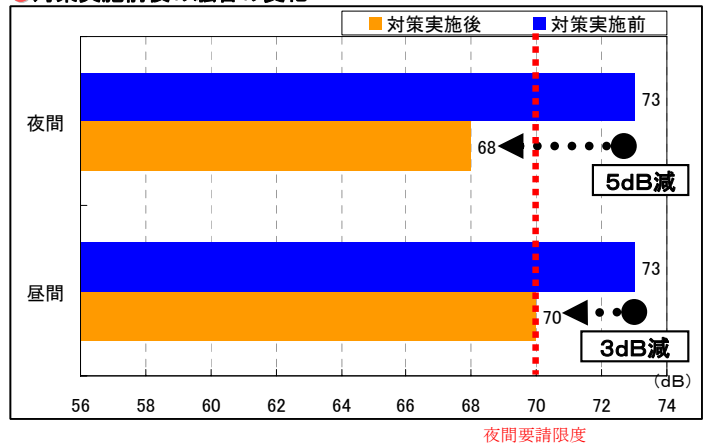
- i) 国道1号 駿東郡清水町玉川
- ・低騒音舗装 800m



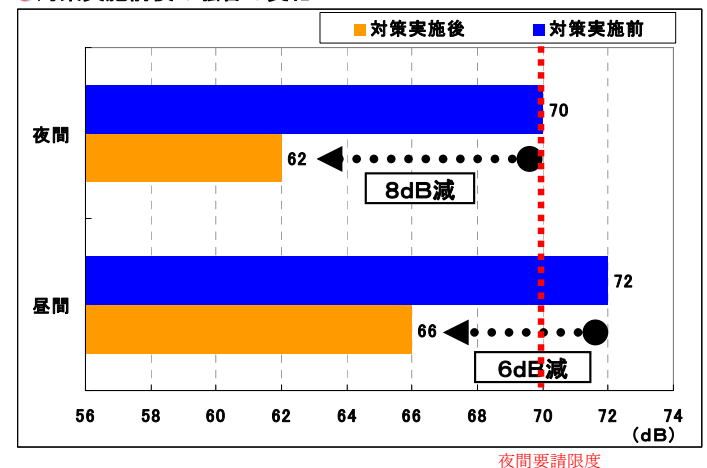
- ii) 国道1号 静岡市葵区天王町
- ・排水性舗装 700m



●対策実施前後の騒音の変化



●対策実施前後の騒音の変化

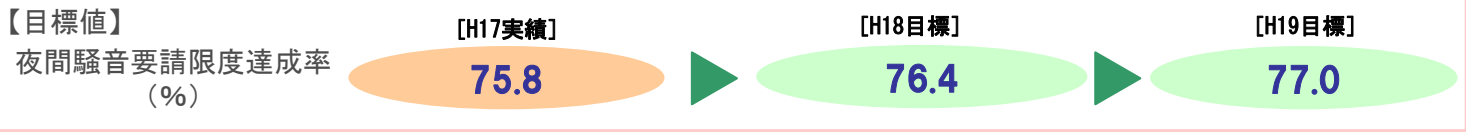


(3) 平成18年度業績計画

①沿道環境対策

◆夜間要請限度超過区間において重点的に騒音対策を実施

・夜間要請限度超過区間において、低騒音舗装の整備や遮音壁の設置による騒音対策を推進します。



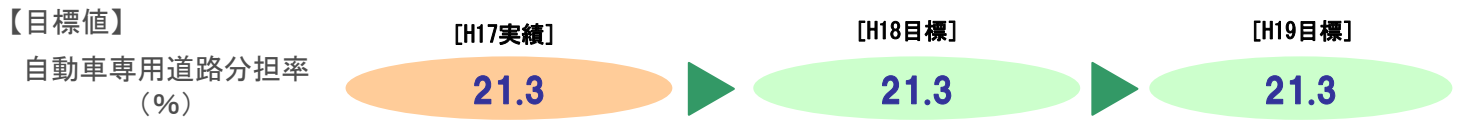
②自動車専用道路利用率の向上

◆自動車専用道路ネットワークの拡充

・金谷御前崎連絡道路等の自動車専用道路(地域高規格道路)のネットワークの拡充により、自動車専用道路の分担率を向上します。

◆追加ICの設置に向けた施策展開

・スマートICの本格導入に向けさらなる検討を実施します。



平成18年度の取り組み事例

～自動車専用道路の利便性向上【富士川SAにおけるスマートIC※社会実験】

(1) 社会実験の概要

- ①目的
高速道路の利便性の向上及び富士川楽座の開放型SAの利用拡大効果
県道富士由比線(旧国道1号)における富士川橋付近の渋滞緩和・解消
- ②実験箇所
東名高速道路 富士川サービスエリア
上り線(入口、出口) 下り線(出口のみ)
- ③実験期間
平成18年2月15日(水)～平成19年3月31日(予定)
- ④実験時間
あさ6時～よる8時
- ⑤対象車種
ETC車載器搭載の軽自動車、普通車、中型車
(ただし、けん引車は除く)

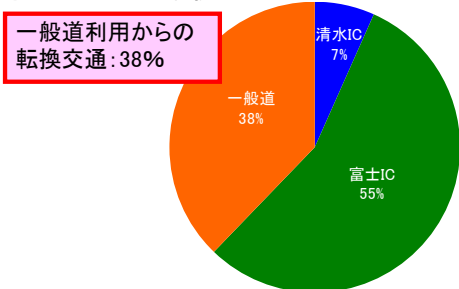
※スマートIC:ETC専用施設が設置され、ETC車載車両のみが通行可能なIC。ETC車載車両専用ICのため構造を簡易にすることができ、建設費や管理費を安価にできるため、SA・PA、都市部など、狭いスペースにもフレキシブルに設置可能である。



(2) 利用状況と今後の展開

富士川SAスマートICの平均利用台数は平日平均833台/日であり、1日の利用台数の約50%が朝夕の通勤時間帯に集中しています。利用者アンケート調査結果から、一般道からの転換交通が約4割を占めていることも把握できました。平成19年度4月からの本格運用に向けて、SA利用者との交錯やICへの案内誘導等の課題を改善し、安全に利用していただくためにレイアウト等の検討を実施していきます

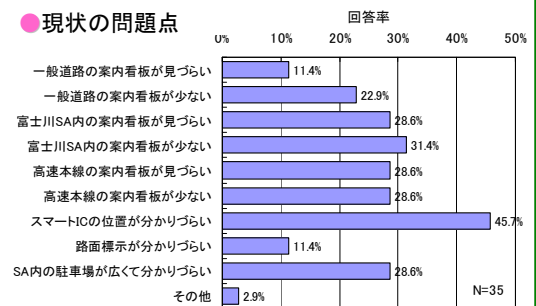
●富士川SAへの転換交通



●スマートIC利用車と駐車車両の錯綜



●現状の問題点



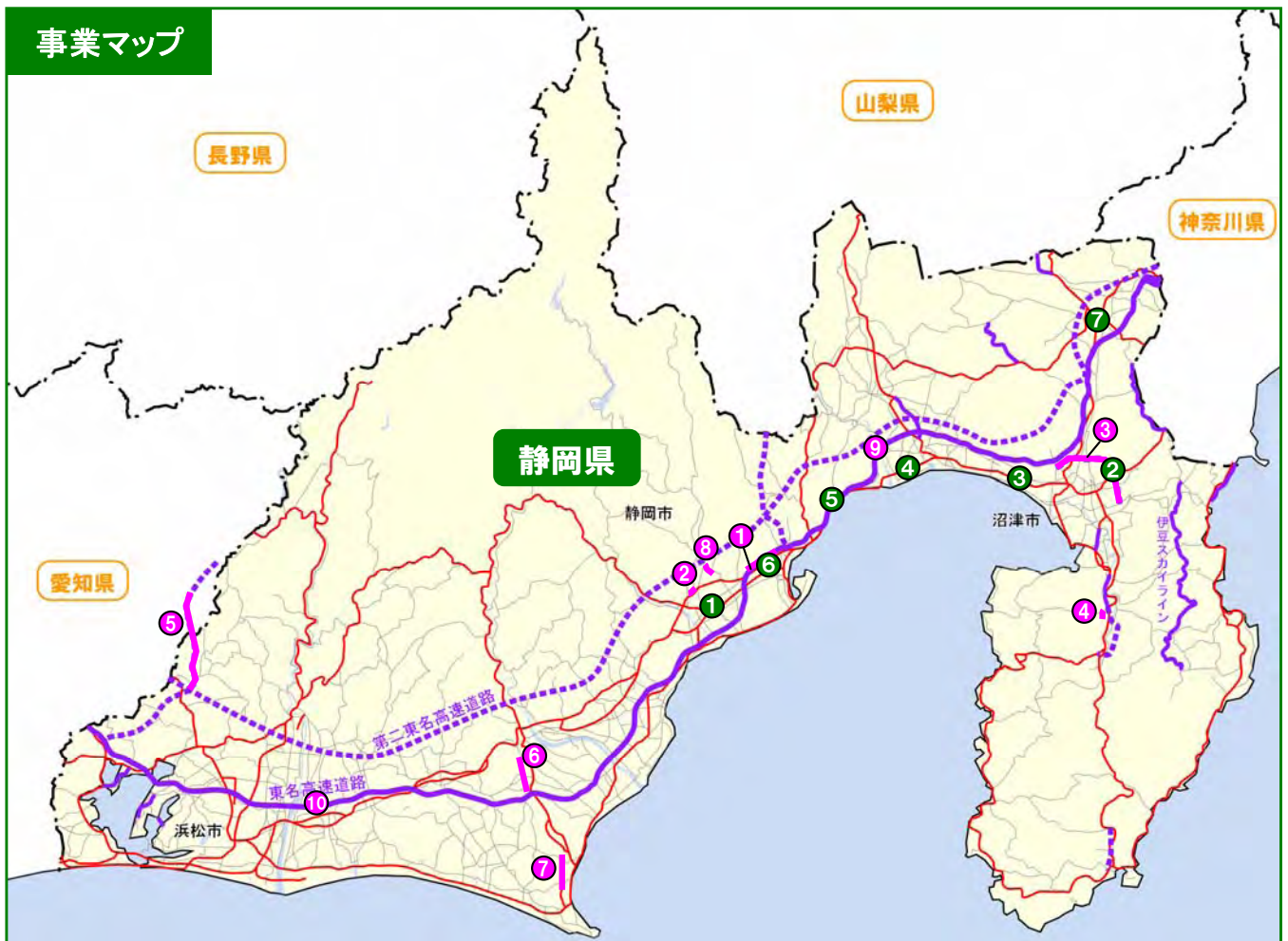
●平成18年度に実施する主な対策～沿道環境の改善

	主な事業箇所	路線名	延長等	完成目標年度	施策
1	静岡市葵区昭和町～葵区川辺町2丁目	国道1号	0.5km	平成18年度	低騒音舗装の整備
2	静岡県三島市谷田	国道1号	1.4km	平成18年度	
3	静岡県沼津市東椎路	国道1号	0.5km	平成18年度	
4	静岡県富士市中里	国道1号	1.1km	平成18年度	
5	静岡県庵原郡由比町今宿	国道1号(上り線)	1.0km	平成18年度	
6	静岡市清水区庵原町	国道1号BP	0.5km	平成18年度	
7	静岡県御殿場市茱萸沢	国道246号	1.5km	平成18年度	

●平成18年度に実施する主な対策～規格の高い道路整備推進

	主な事業箇所	路線名	延長等	完成目標年度	施策
1	八坂～鳥坂IC間の4車線化	国道1号静岡バイパス	4.1km	平成19年度	交通容量の拡大
2	昭府立体事業(暫定2車線)	国道1号静岡バイパス	1.4km	平成19年度	
3	(仮称)岡宮IC(東名沼津IC)～(仮称)塚原IC間の整備	伊豆縦貫自動車道(東駿河湾環状道路)	10.0km	平成19年度	通過交通の転換
4	修善寺IC～(仮称)大平IC間の整備	伊豆縦貫自動車道(天城北道路)	1.6km	平成19年度	
5	(仮称)引佐JCT～(仮称)鳳来ICの整備	三遠南信自動車道	約14km	整備促進	
6	国道473号 倉沢IC～沢水加IC間の整備	金谷御前崎連絡道路	4.4km	平成19年度	地域高規格道路の整備推進
7	国道150号 大沢IC～須々木IC間の整備	金谷御前崎連絡道路	3.2km	平成18年度	
8	静岡市葵区下～静岡市葵区加藤島区間の整備	静岡南北道路((主)山脇大谷線)	約3km	整備促進	有料道路の利用促進
9	スマートICの社会実験(富士川SA)	東名高速道路	1箇所	平成19年度本格運用	
10	スマートICの社会実験(遠州豊田PA)	東名高速道路	1箇所	平成19年度本格運用	

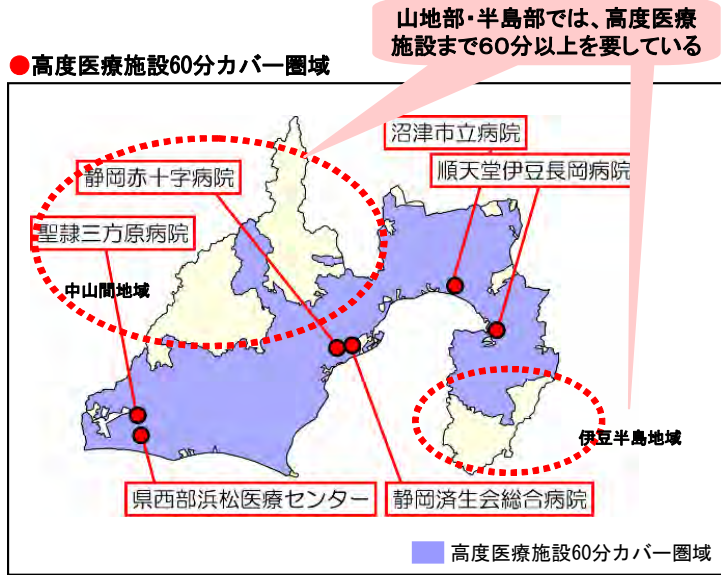
※開通予定は、平成18年度予算とほぼ同程度の道路整備予算が確保されることを前提としています。今後、予算規模が大きく変動した場合など適宜見直しを行います。



(1) 静岡県の現況

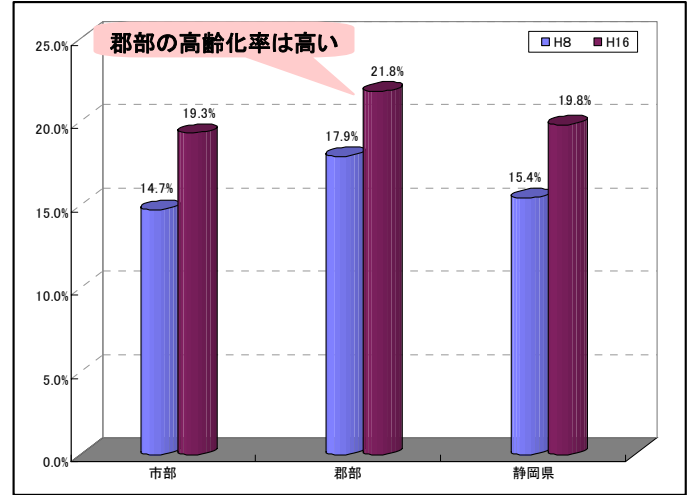
① 高度医療施設への搬送時間の現状

◇山地部・半島部から生活圏の中心都市に位置する救命医療を担当する高度医療施設までの所要時間は60分以上を要しています。
 ◇また、中山間地域、伊豆半島地域では都市部以上に高齢化が進んでおり、中山間地域での移動の安全性、快適性の向上が必要です。



出典：H17年度静岡県資料

● 市部・郡部別の高齢化率の推移

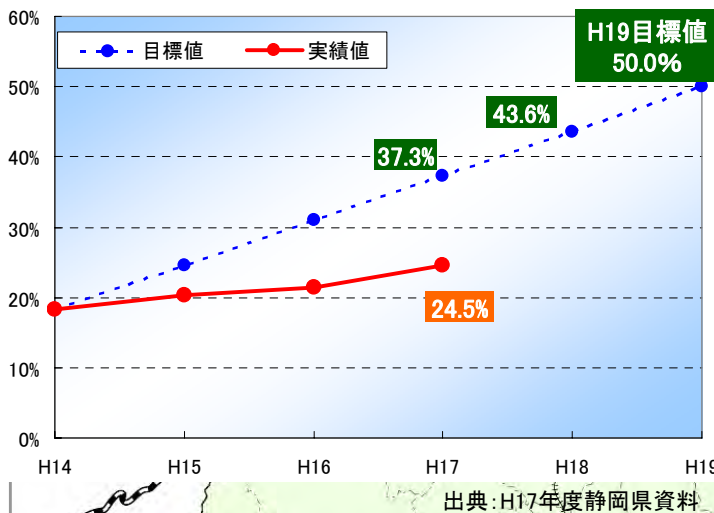


出典：H16年度静岡県資料

② 主要駅周辺道路のバリアフリー化の現状

◇利用客数の多い静岡駅周辺道路でもバリアフリー化率は40%未満であり、高齢化社会の到来に向け更なる取り組みが必要です。
 ◇平成17年度に静岡県内主要旅客施設周辺道路のバリアフリー化の定義の見直しを行いました。

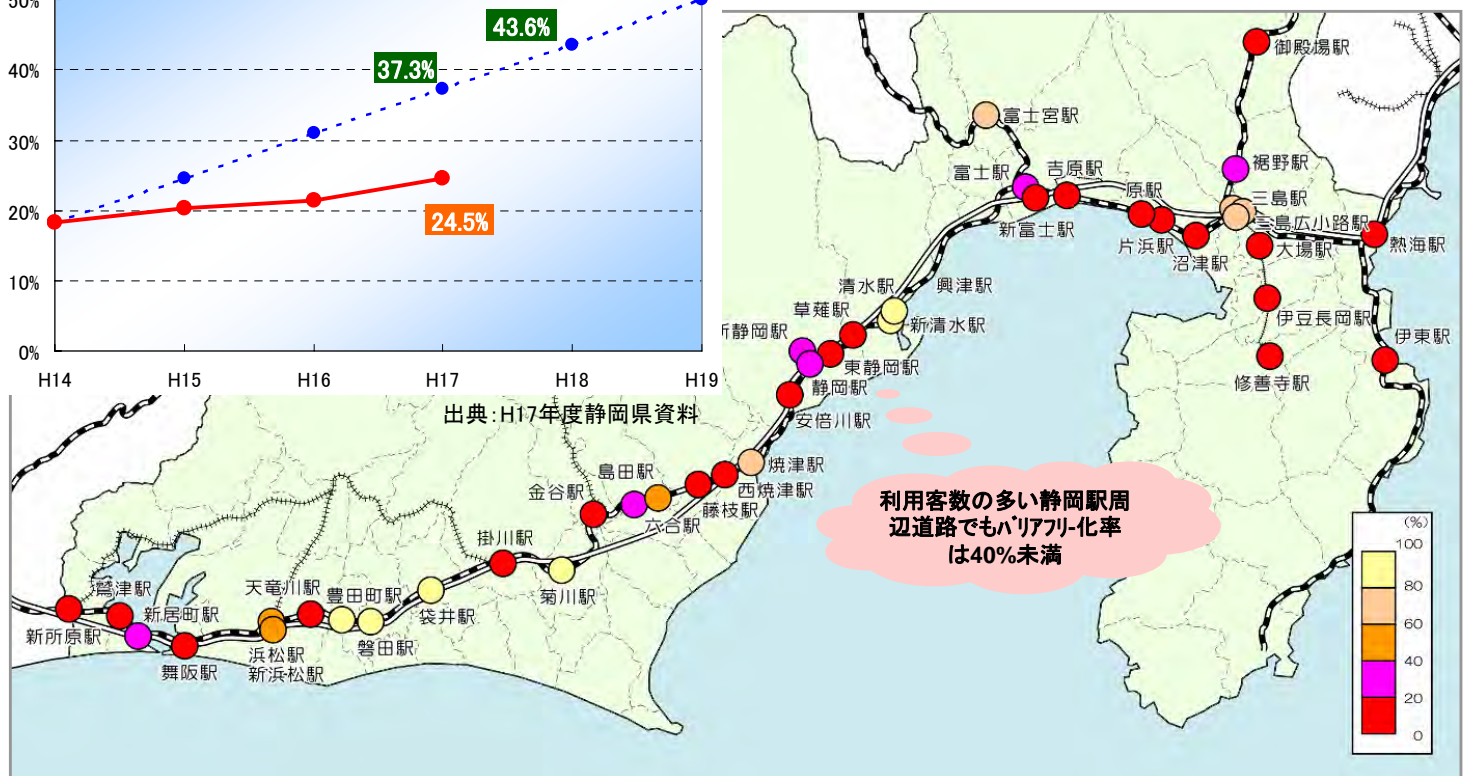
● 主要旅客施設周辺道路のバリアフリー化率の推移



出典：H17年度静岡県資料

※バリアフリー化率：道路の移動円滑化に関する基準を満たし、高齢者・障害者にとっても円滑で安全に移動できる歩行空間が整備されている道路の割合

● 対象駅と駅別の主要旅客施設周辺道路のバリアフリー化率



出典：H17年度静岡県資料

(2) 平成17年度事業の達成度報告

①平成17年度に実施した施策

- ◇高度医療施設へのアクセス性を図るために、中山間地域における道路交通の利便性を向上する施策を実施しました。
- ◇また、高齢者でも安心して外出できる道路空間を構築するため、バリアフリー化を推進しました。

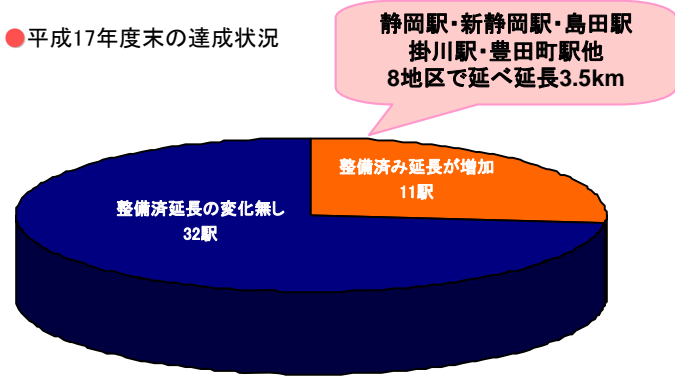
●平成17年度に実施した主な対策

目的	施策	内容
中山間地域の 道路交通の確保	バイパス整備	国道135号宇佐美網代BP 国道152号西川横山拡幅 国道469号富士勢子辻拡幅 国道473号大和田Ⅱ拡幅 (一)山中湖小山線藤曲BP (一)白糸富士宮線富岡BP
	すれ違い困難 区間の解消	(主)川根寸又峽線 (一)引佐六郎沢線 (一)春野下泉停車場線
歩行者空間の快適 性・安全性の向上	バリアフリー化	静岡駅周辺地区 浜松駅周辺地区 等8地区
	歩道整備	国道52号(小島・但沼地区) (主)三島富士線 (一)大富藤枝線 等

②平成17年度施策の評価

- ◇高度医療施設のカバー圏域に変化はありませんでしたが、三遠南信自動車道等の整備により今後カバー圏の拡大が期待されます。
- ◇平成17年度末に前年度より整備済み延長が増加した駅は11駅のみで、バリアフリー化が進んでいない箇所があり、県全体の目標値の達成には至りませんでした。

●平成17年度末の達成状況



出典:H17年度静岡県資料

平成17年度の取り組み事例

～伊豆地域の道路交通の確保【国道135号網代バイパス】

【概要】

国道135号の熱海市網代地区の網代トンネルは道路幅員が5.5mと狭く、通行車両の高さも4.0m以下に制限されていました。このため、すれ違い困難による交通渋滞や交通事故が発生するなど交通の支障となっていました。

安全で円滑な交通を確保するために、新網代トンネル、立岩トンネルが開通し、すれ違い困難区間が解消されました。

【開通日】平成17年11月18日

【実施箇所】一般国道135号 静岡県熱海市網代

【道路幅員】11.0m(車道8.5m、歩道2.5m)

【整備延長】815m

【区間内の主要構造物】

立岩トンネル(284m)、朝日大橋(264m)



●バイパス開通前の網代トンネル



供用前

●現道より海側に朝日大橋を新設



供用後

●立岩トンネル



供用後

(3) 平成18年度事業の業績計画

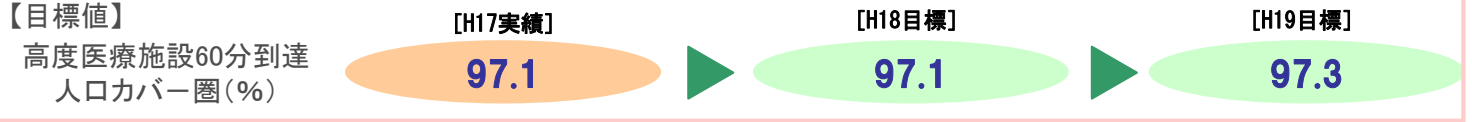
① 中山間地域における移動の安全性・快適性の向上

◆ 中山間地域における移動困難箇所の解消

・すれちがい困難箇所における道路改良等により、移動の安全性・快適性の向上をはかります。

◆ 中山間地域と都市部とを結ぶ道路ネットワークの拡充

・三遠南信自動車道、伊豆縦貫自動車道、静岡南北道路等の整備により、ネットワークの拡充を図り、中山間地域と都市部の連携強化をはかります。

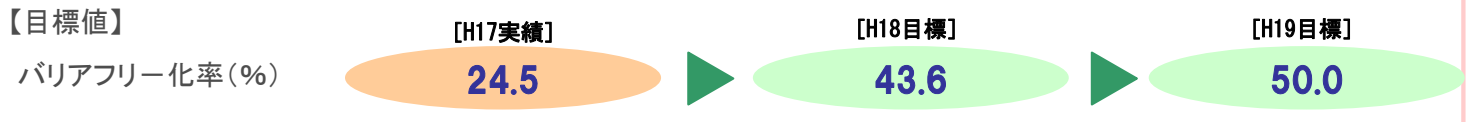


② バリアフリー化の推進

◆ 着実な歩行空間のバリアフリー化の推進

・平成17年度にバリアフリー化の定義の見直しを行いました。今後、主要旅客施設、官公庁施設及び医療施設等の周辺道路における歩道のバリアフリー化の推進を行い、目標達成を目指します。

・電線共同溝を整備し、電線類を地中化することにより、安全に移動できる歩行空間を実現します。



平成18年度の取り組み事例

～みんなにやさしい道づくりワークショップ【国道1号静岡市葵区紺屋町～吉野町】

(1) ワークショップの概要

◇ 国道1号の静岡駅付近から吉野町交差点までの約1km間の歩道を、みんなにやさしい歩行空間として整備するためにワークショップを企画しました。

第1回：平成18年9月21日

第2回：平成18年10月12日・13日

第3回：平成19年3月予定

◇ 「歩車道境界の段差と勾配」、「舗装材」等のテーマを設け、地域の道路利用者の他、視覚に障害をもつ方や車いす・ベビーカー利用している方に試験的につくった歩道を体験していただき、整備方針を決定しました。

◇ 今後、完成した歩道を実際に歩いていただき、出来上りの満足度を評価し、今後の歩道整備に活かしていきます。

● ワークショップの開催状況



(2) ワークショップの主な検討結果

● 歩車道境界部の形状



◇ 歩車道境界には、視覚に障害を持つ方が自分自身の位置を把握できるよう、段差を設けるのが標準ですが、それに代わる注意喚起の溝を施すことにより段差をなくし、車いすやベビーカー利用者が利用しやすいようにしました。

● 車両乗入部の形状



◇ 車両乗り入れ部の段差は5cmが標準ですが、自転車の乗り入れを想定した際、転倒の危険があるため、歩道と車道の段差は2cmとしました。

● 視覚障害者誘導ブロック



◇ 基準では道路と民地の境界から60cm程度離れた位置に敷設するように定められていますが、建物からの人の出入が多いため、民地から1.0m程度離して敷設することにしました。

● 舗装のデザイン



◇ 舗装のデザインはシンプルな単一色とし、透水機能のあるものとした。
◇ 交差点部や車両乗入部は誘導ブロックがより目立つ色とした。

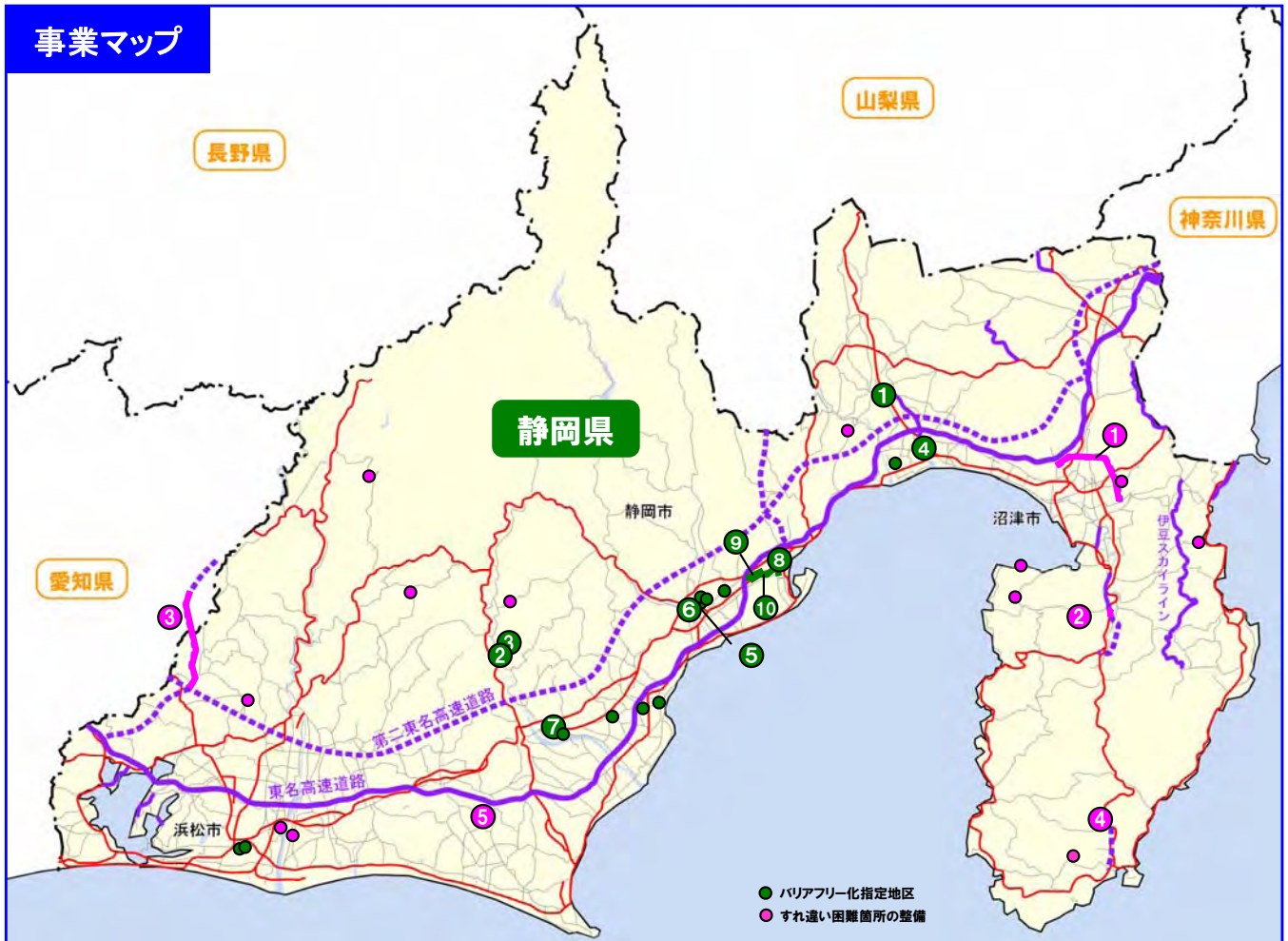
●平成18年度に実施する主な対策～高度医療施設への搬送時間の短縮

	主な事業箇所	路線名	延長等	完成目標年度	施策
1	(仮称)岡宮IC(東名沼津IC)～(仮称)塚原IC間の整備	伊豆縦貫自動車道 (東駿河湾環状道路)	10.0km	平成19年度	高規格幹線道路の 整備促進
2	修善寺IC～(仮称)大平IC間の整備	伊豆縦貫自動車道 (天城北道路)	1.6km	平成19年度	
3	(仮称)引佐JCT～(仮称)鳳来ICの整備	三遠南信自動車道	約14km	整備促進	
4	箕作拡幅(静岡県下田市箕作)	国道414号	1.0km	平成18年度	すれ違い困難箇所の 整備促進
5	菊川市加茂 他12路線	(主)吉田大東線	0.5km	平成18年度	
	他12路線		12区間	平成18年度	

●平成18年度に実施する主な対策～バリアフリー化の推進

	主な事業箇所	路線名	延長等	完成目標年度	施策
1	富士宮市田中町	(一)朝霧富士宮線	0.38km	平成18年度	歩道整備等 歩行者空間の改善
2	川根町身成	(主)島田川根線	0.93km	平成18年度	
3	川根町身成	(主)藤枝天竜線	0.15km	平成18年度	
4	富士市錦町～国久保	国道139号	1.7km	平成18年度	
5	バリアフリー化指定地区	静岡駅 他	11箇所	整備促進	
6	静岡駅前交通結節点改善事業	国道1号	—	平成19年度	交通結節点の整備
7	島田市中央町	(主)島田停車場線	0.94km	平成18年度	電線類地中化
8	静岡市清水区二の丸町～吉川	国道1号	0.8km	整備促進	
9	静岡市清水区七ツ新屋～楠新田	国道1号	2.2km	平成18年度	
10	静岡市清水区楠新田～葵区西門町	国道1号	7.1km	整備促進	

※開通予定は、平成18年度予算とほぼ同程度の道路整備予算が確保されることを前提としています。
今後、予算規模が大きく変動した場合など適宜見直しを行います。



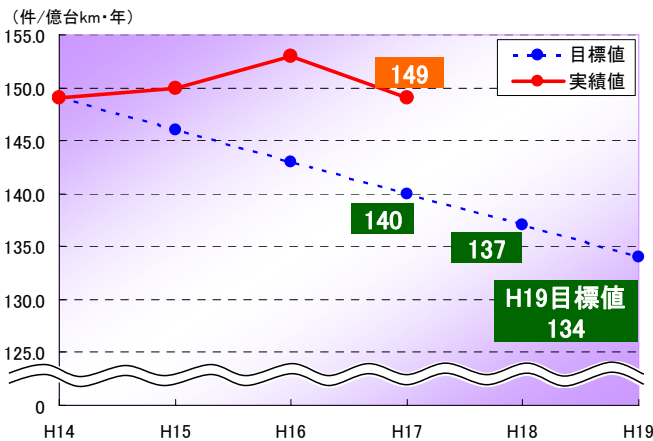
(1) 静岡県の現況

① 交通事故の現況

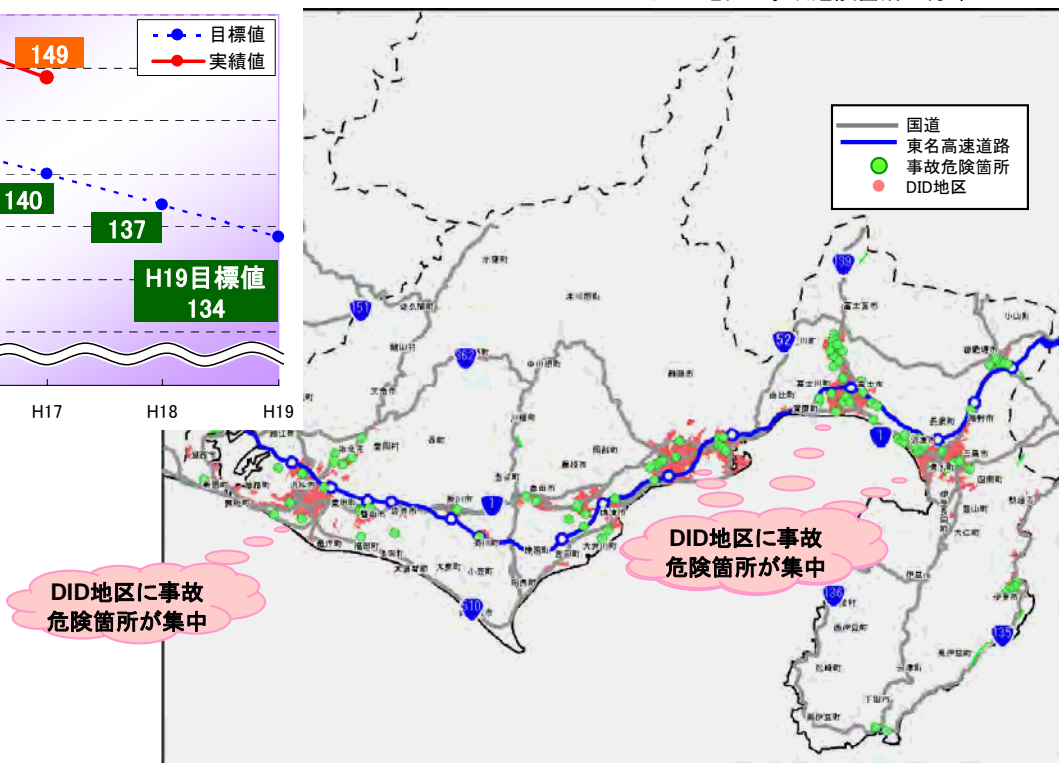
- ◇ 静岡県の死傷事故率^{※1}は、増加傾向にあり、目標値を達成できていない状況にあります。
- ◇ 静岡市・浜松市・沼津市周辺といったDID地区^{※2}に事故危険箇所や事故多発地点の集中する地域があり、これらの地域では総合的なエリア対策が必要です。

※1 死傷事故率:自動車走行台kmあたりの死傷事故件数
 ※2 DID地区:人口集中地区

● 死傷事故率の推移



● DID地区と事故危険箇所の分布



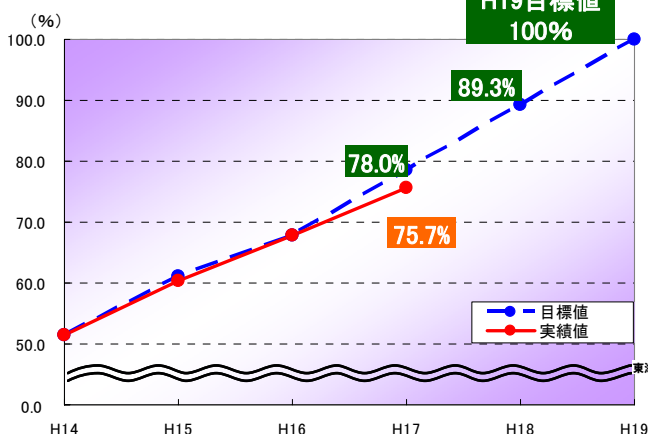
出典: H15年交通事故総合分析センター資料

② 災害に強いルート整備における現況

- ◇ 県全域が東海地震の強化対策地域に指定されており、東名高速道路や東海道新幹線といった重要な路線が震度が高いと想定されている地域を通過しています。
- ◇ 防災・震災対策のために、緊急輸送道路や重要な路線と交差する道路の耐震対策を実施していく必要があります。
- ◇ 現在静岡県内の緊急輸送道路^{※1}の橋梁の耐震化率^{※2}は75.7%となっています。

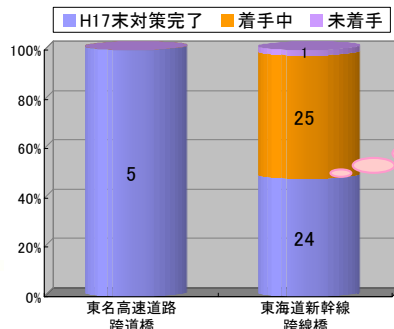
※1 緊急輸送道路:大規模な地震などの災害が発生した場合に、応急対策に従事する車両を円滑かつ確実に確保するために必要な路線
 ※2 橋梁の耐震化率:昭和55年の橋梁の設計基準よりも前の旧基準で施工された橋梁を新たな基準により補強した割合を示す。

● 緊急輸送道路の橋梁の耐震化率の推移



● 東名や新幹線と立体交差する市町村道の耐震対策実施状況

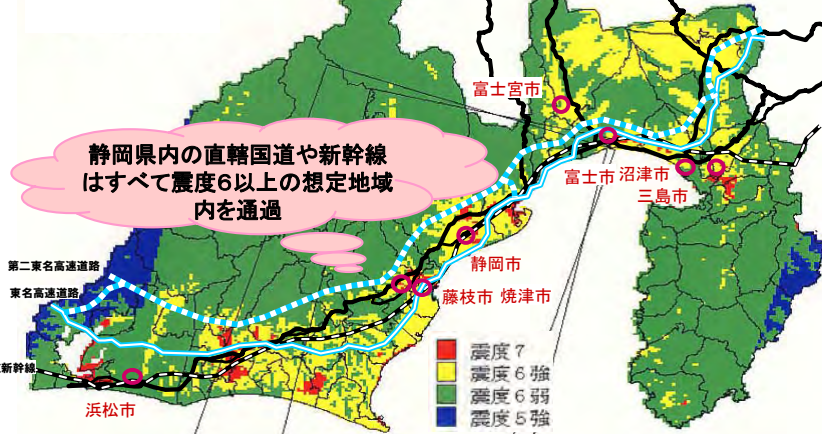
(※平成16年度未対策箇所の実施状況を示す)



新幹線を跨ぐ市町村道では未対策箇所があるが平成19年度未完了予定

出典: H18年度静岡県・静岡市調べ

● 東海地震発生時の震度分布



出典: H13年度静岡県資料

(2) 平成17年度事業の達成度報告

①平成17年度に実施した施策

- ◇交通事故を削減するために事故危険箇所や事故多発地点での重点対策を実施しました。
- ◇防災対策として緊急輸送道路の橋梁の耐震化に取り組みました。

●平成17年度に実施した主な対策

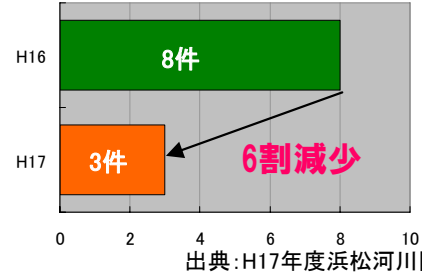
目的	施策	内容
交通事故の削減	事故危険箇所※1、事故多発地点※2対策	国道1号沼津地区 9箇所 国道139号富士宮地区 6箇所 他11箇所
	あんしん歩行エリア※3対策	(主)三島富士線歩道整備
	交差点改良 IC改良	国道1号 西部 6箇所等
大規模災害に対する安全性の向上	緊急輸送道路の橋梁の耐震化	11橋・100橋脚(国道1号) 2橋・11橋脚(国道246号) 他

※1 事故危険箇所: 死傷事故率が幹線道路平均の5倍以上又は10年に1度以上の確率で死亡事故が発生するおそれの高い箇所
 ※2 事故多発地点: 10年毎に1件以上の死亡事故が再発して発生する可能性が高い箇所
 ※3 あんしん歩行エリア: 市街地での歩行者や自転車利用者の安全な通行を確保するため事故抑止対策の必要な箇所

②平成17年度施策の評価

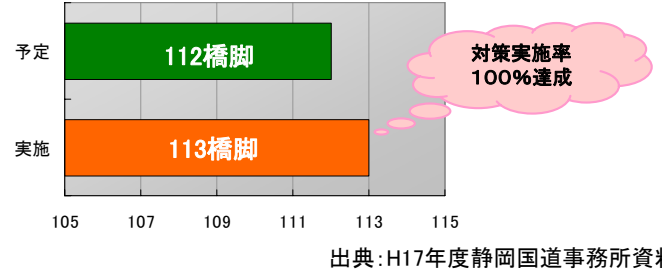
- ◇事故危険箇所・事故多発地点の集中的な対策や交差点改良やIC改良の対策をおこなった結果、死傷事故率は昨年度より減少しました。

●対策前後の死傷事故件数の変化(国道1号岩井交差点: 事故危険箇所)



- ◇本年度の橋脚の耐震化については、3箇年プログラムに基づき、予定どおり実施しました(ただし、昨年中間目標値を下回っているため、本年度も中間目標値を達成することができませんでした)。

●平成17年度の整備計画に対する達成状況

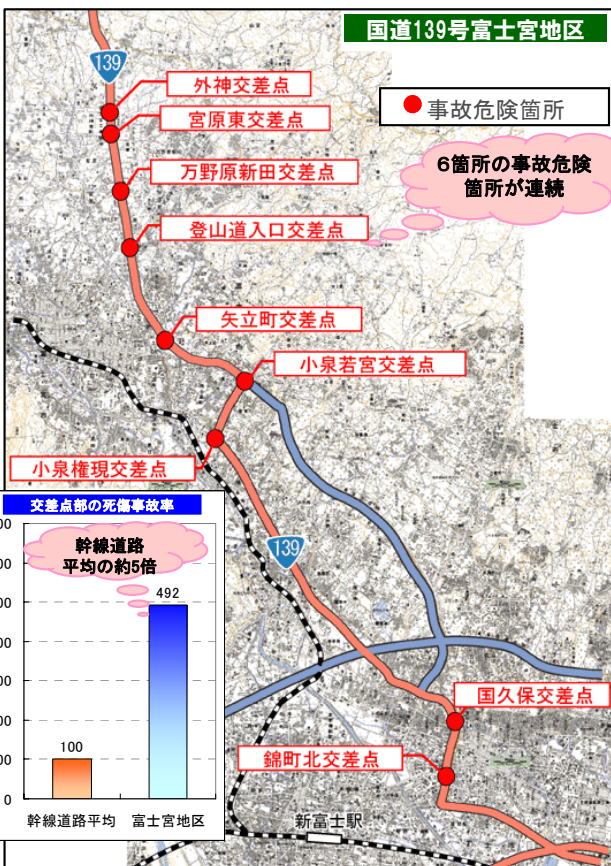


平成17年度の取り組み事例

～事故多発地点における集中的な対策【国道139号富士宮エリア】

(1) 国道139号富士宮地区の現状

◇国道139号富士宮エリアは事故危険箇所「6箇所」が約7kmの区間に連担しており、当該地区交差点の死傷事故率は、幹線道路の平均値の約5倍となっています。



(2) 対策の実施と効果の検証

◇各事故危険箇所の特性を分析するとともに、エリア全体での事故対策も検討し対策を実施しました。

<小泉若宮交差点>

- ・カラー舗装(H17)
- ・ドットライン(H17)
- ・区画線の高輝度化(H17)
- ・減速ベルト(H17)
- ・右折矢印後の黄色信号追加(H15)(交)
- ・信号矢印のLED化(H15)(交)



<外神交差点>

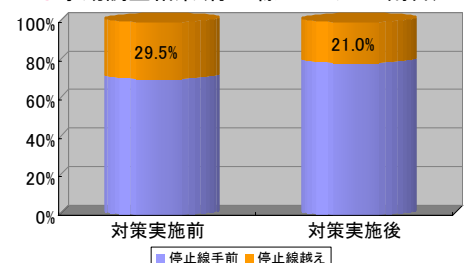
- ・交差点中心の指定(H15)
- ・カラー舗装(H17)
- ・ドットライン(H17)
- ・区画線の高輝度化(H17)
- ・排水性舗装(H17)
- ・右折矢印後の黄色信号追加(H15)(交)



(交)・・・交通管理者が実施した対策

◇対策実施後、停止線をはみだして停車する車両の割合は減少しました。

●挙動調査結果(停止線のはみだし割合)



(3) 平成18年度事業の業績計画

① 交通事故の削減

◆ 事故危険箇所やあんしん歩行エリアについて重点的な事故対策の実施

- ・事故危険箇所や事故多発地点における重点的な事故対策を進めるとともに、対策実施済箇所についても、事後評価を行い、必要な追加対策を実施します。
- ・県内24箇所の「あんしん歩行エリア」で、ハンプ(段差)やクランク等の自動車の速度を落とす施設整備を実施します。

◆ バイパスの整備による、交通転換の促進

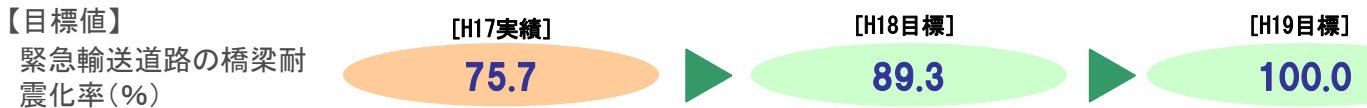
- ・現道に比べ事故率の低いバイパス(静清バイパス等)を整備促進し、事故率が高い路線からの交通転換をはかります。



② 大規模災害に対する安全性の向上

◆ 緊急輸送道路の橋梁の耐震補強を重点的に実施

- ・災害時に拠点間輸送の基盤となる、緊急輸送道路(1次、2次)の橋梁において、整備計画に基づき着実に耐震化を進めます。



平成18年度の取り組み事例

～災害に強いネットワークの形成～ 【三遠南信自動車道の整備促進】

- ◇ 三遠南信自動車道の開通により、地域間が高規格幹線道路で結ばれ、地域の安全性が向上します。
- ◇ 三遠南信自動車道の開通により、国道151号や国道152号の災害発生時の代替機能が強化されるほか、防災危険箇所や通行規制区間を避けて通行することができ、災害に強いネットワークが形成されます。

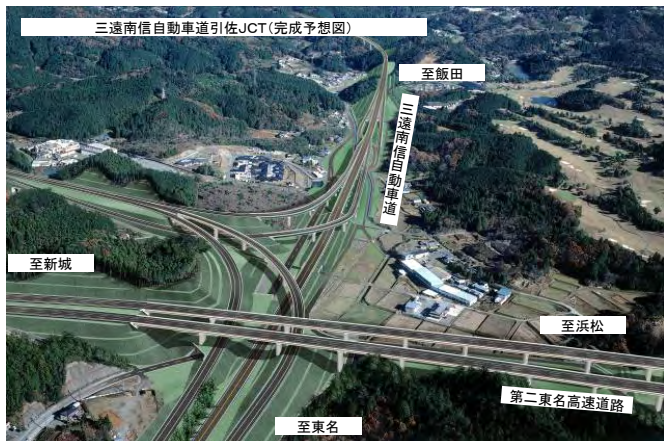
● 国道473号 浜松市佐久間町片和瀬 通行止め状況



● 国道152号 浜松市佐久間町大井 通行止め状況



● 三遠南信自動車道引佐JCT



● 三遠南信自動車道の整備効果



出典: H16年度浜松河川国道事務所資料

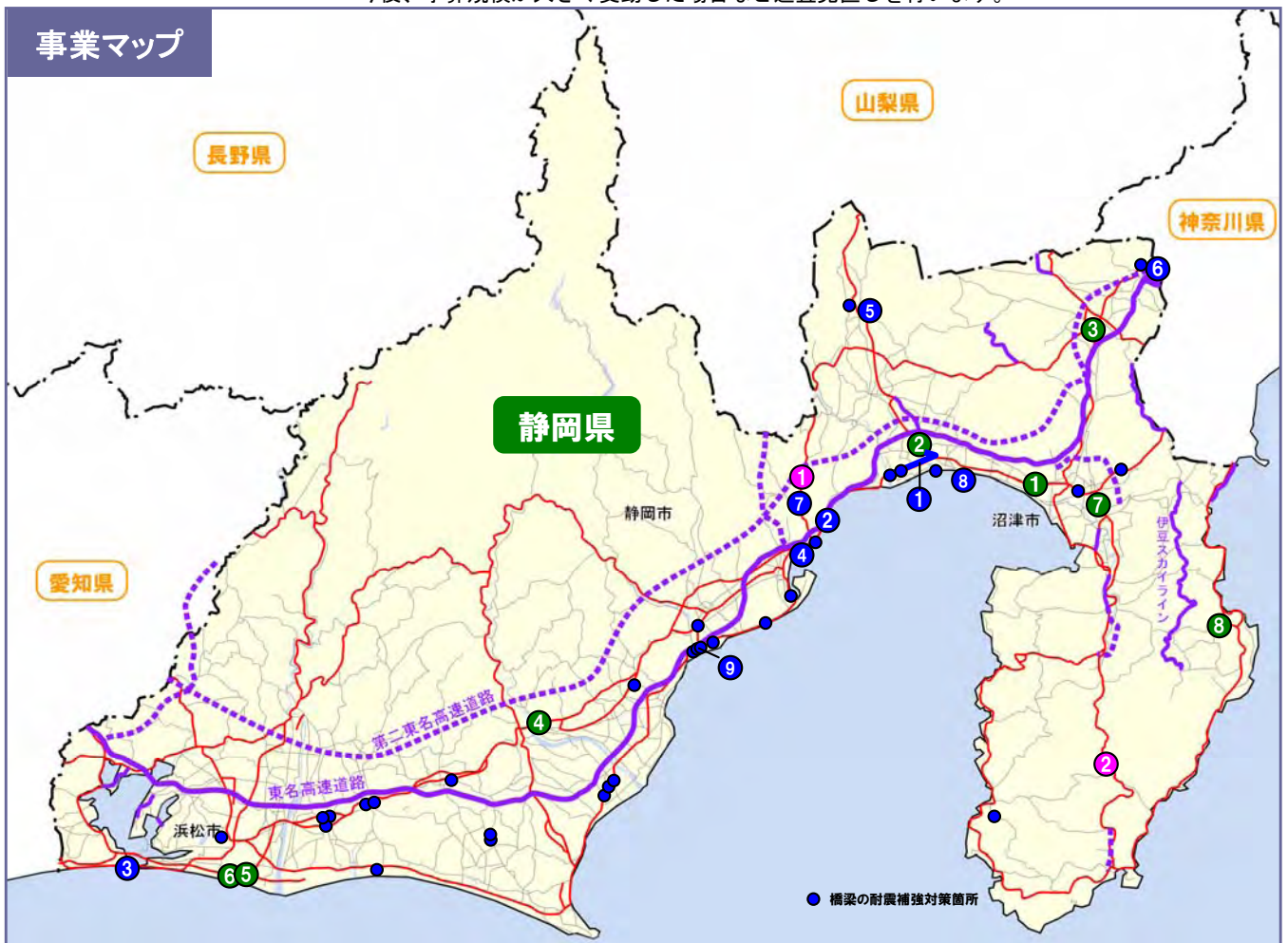
●平成18年度に実施する主な対策～交通事故の削減対策

	主な事業箇所	路線名	箇所数等	完成目標年度	施策
1	沼津市県自入口交差点他	国道1号・国道1号BP	10箇所	H18年度	事故危険箇所及び事故多発地点対策
2	富士市錦町交差点他	国道139号	2箇所	H18年度	
3	御殿場市川島田交差点	国道246号	1箇所	H18年度	
4	向谷IC交差点改良(島田市向谷)	国道1号	—	H18年度	交差点改良
5	中田島東交差点改良(浜松市中田島町)	国道1号	—	H18年度	
6	中田島交差点改良(浜松市中田島町)	国道1号	—	H18年度	
7	中郷小前交差点改良(三島市梅名)	国道136号	—	H18年度	
8	広野2丁目交差点改良(伊東市広野)	(主)伊東修善寺線	—	H18年度	

●平成18年度に実施する主な対策～防災対策

	主な事業箇所	路線名	箇所数等	完成目標年度	施策
1	蒲原高架橋	国道1号	46基	平成18年度	橋梁の耐震補強の実施 (橋梁の耐震化・橋梁の補強・落橋防止)
2	由比港高架橋	国道1号	30基	平成18年度	
3	新居高架橋	国道1号	14基	平成18年度	
4	興津高架橋他	国道1号その他	15橋(84基)	平成18年度	
5	下猪之窪沢橋他	国道139号	2橋(5基)	平成18年度	
6	頓沢橋他	国道246号	2橋(12基)	平成18年度	
7	唯幣橋	国道52号	1橋(4基)	平成18年度	
8	広沼橋他	静岡県管理路線	10橋(21基)	平成18年度	
9	用宗高架橋他	静岡市管理路線	6橋(23基)	平成18年度	
1	静岡市清水区小河内	国道52号	1箇所	平成19年度	法面对策工
2	賀茂郡河津町梨本	国道414号	4箇所	平成20年度	

※開通予定は、平成18年度予算とほぼ同程度の道路整備予算が確保されることを前提としています。今後、予算規模が大きく変動した場合など適宜見直しを行います。

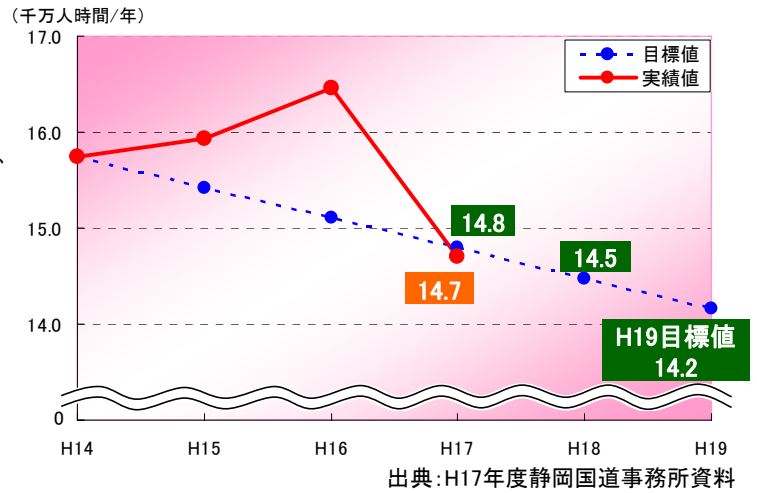


(1) 静岡県の現況

① 渋滞損失時間の発生状況

- ◇渋滞損失時間※は、昨年に比べ約11%程度減少し、目標値を達成することができました。
- ◇しかしながら、依然として地域別にみると、沼津地域、静岡地域、浜松地域等の都市部で渋滞損失が多く生じています。
- ◇路線別に見ると、国道1号で静岡県全体の約20%の渋滞損失が生じています。

● 渋滞損失時間の変化



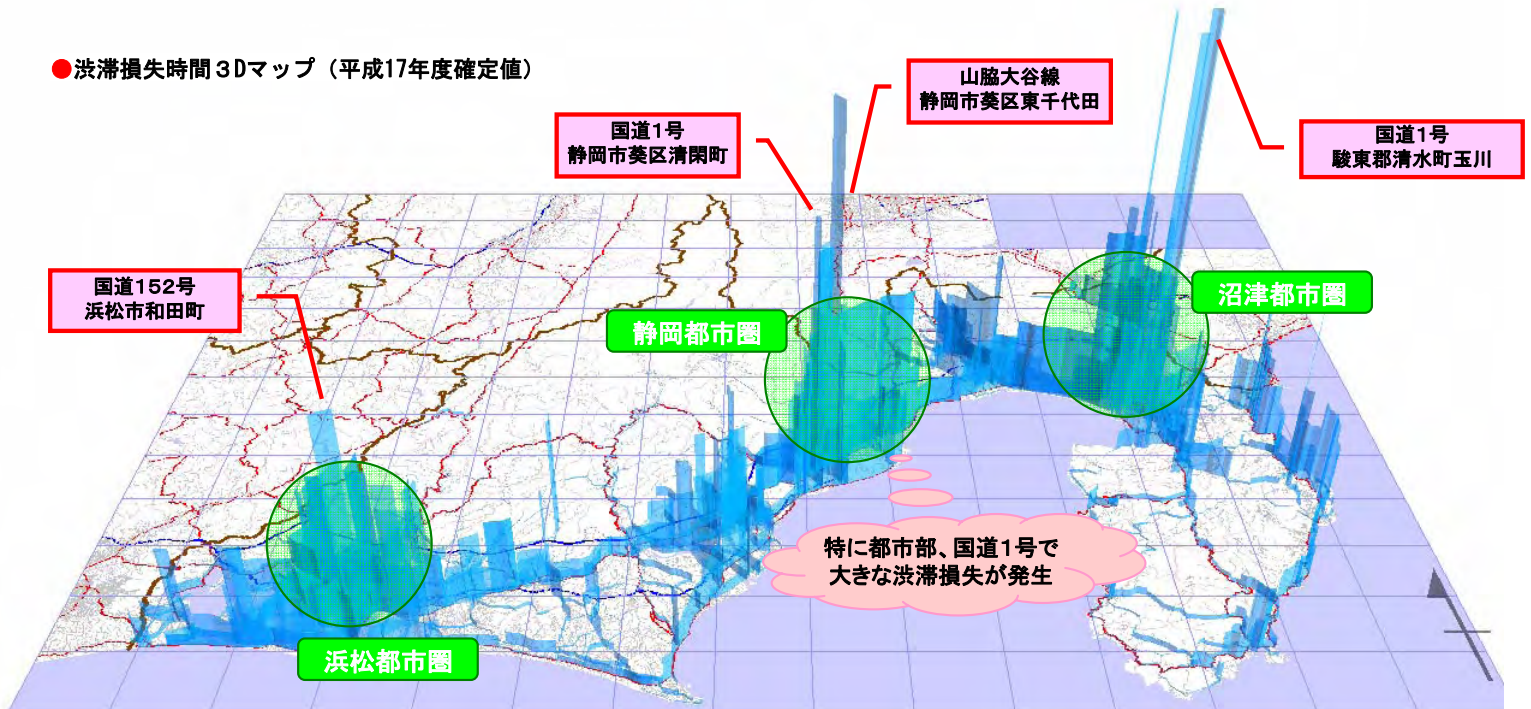
※渋滞損失時間: 渋滞が無い場合の所要時間と実際の所要時間の差

渋滞損失時間 = $\Sigma((\text{区間距離} \div \text{通常の旅行速度}^{\ast 1}) - (\text{区間距離} \div \text{基準旅行速度}^{\ast 2})) \times \text{区間交通量} \times \text{平均乗車人数}$

※1通常の旅行速度: 調査結果の速度

※2基準旅行速度: 渋滞がない場合の速度(調査結果全体の旅行時間の短い方から順に並べて累積10%にあたる旅行時間から求めた速度)

● 渋滞損失時間3Dマップ (平成17年度確定値)



② 路上工事による規制時間の現状

- ◇道路占用※及び道路工事等関係事業者調整会議による路上工事の日程調整などにより、道路工事・占用工事に伴う規制日数はともに減少傾向にあります

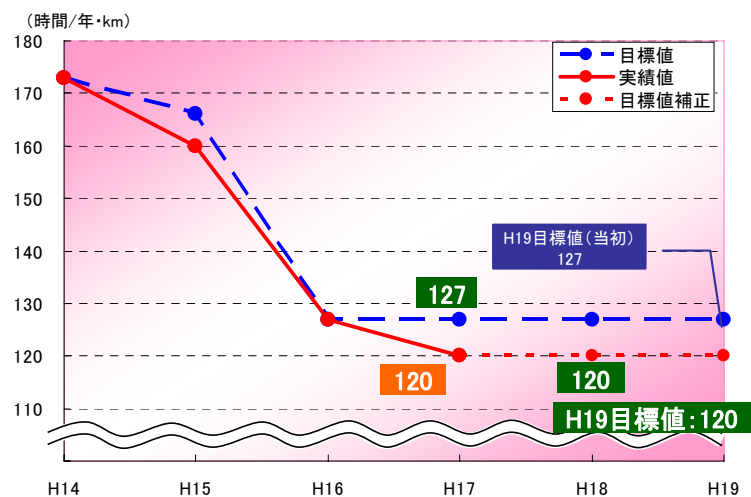
※道路占用: 道路上において、電柱やガス管、水道管のように道路管理者以外の者が継続して道路を使用すること

● 路上工事抑制期間

① ゴールデンウィーク	平成17年4月23日～平成17年5月8日
② 夏期観光及び帰省ラッシュの時期	平成17年8月6日～平成17年8月21日
③ 年末年始の休日	平成17年12月18日～平成18年1月9日
④ 年度末の期間※	平成18年3月1日～平成18年3月31日

※④年度末の期間については県庁所在地および20万人以上の都市(静岡市・浜松市・富士市・沼津市)のみを対象とした

● 路上工事時間の変化



(2) 平成17年度事業の達成度報告

①平成17年度に実施した施策

◇静清バイパス等の大規模な道路整備は完成年度が平成18年度以降となるため、完成目標年次に向けた着実な事業実施とボトルネック*対策などの短期的な渋滞対策を中心に取り組みました。

●平成17年度に実施した主な対策

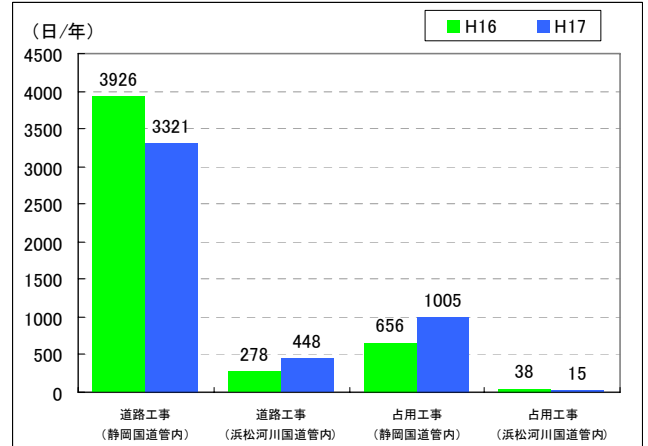
目的	施策	内容
渋滞の緩和・解消	ボトルネック対策	4箇所
	バイパス整備	静清バイパス 1.9km
	現道拡幅	丸子池田線 0.7km
自動車専用道路の利便性向上	スマートIC社会実験	富士川SA 遠州豊田PA
路上工事の縮減	道路工事の集約化	国道1号静清バイパス等
	わかりやすい工事看板の設置	

※ボトルネック:道路交通である一地点が妨げとなって、全体の流れを滞らせる要因のこと。一般的に橋や踏切、主要路線が交差する交差点が挙げられる。

②平成17年度施策の評価

- ◇国道1号有料4バイパスの無料化により、H16に対しH17で渋滞損失時間は大幅に減少し、目標を達成しました。
- ◇路上工事時間については、占用工事の規制日数が増加しましたが、道路工事が減少したことにより、全体としては削減を図ることができました。

●工事内訳規制日数の変化



出典: H17年度国土交通省資料

平成17年度の取り組み事例

～バイパス利便性向上による渋滞緩和【静清バイパスの4車線化】

◇平成17年度に国道1号静清バイパスのうち千代田上土IC～唐瀬IC間が4車線化されました。4車線化されるまで千代田上土ICの名古屋方面は平和町2丁目交差点を先頭にした渋滞により、ICが利用しづらい状況にありました。

◇千代田上土IC～唐瀬IC間の4車線化により千代田上土IC付近の渋滞緩和、静清バイパスから県立総合病院や県立こども病院へのアクセスが改善されました。

【開通日】 2006年3月15日(水)

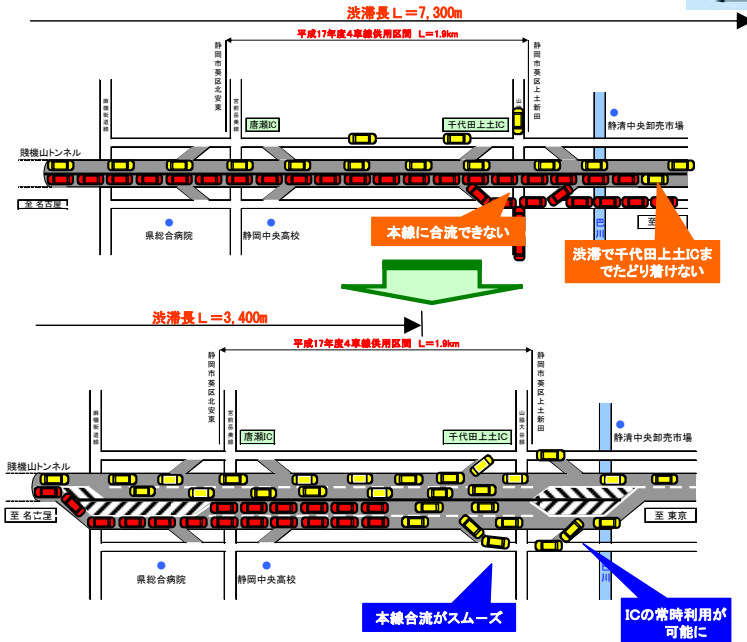
【開通区間】 千代田上土IC～唐瀬IC(2車→4車)

【整備延長】 L=1.9km

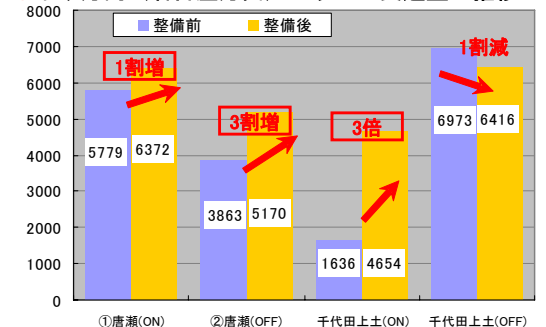
●静清バイパス整備概要



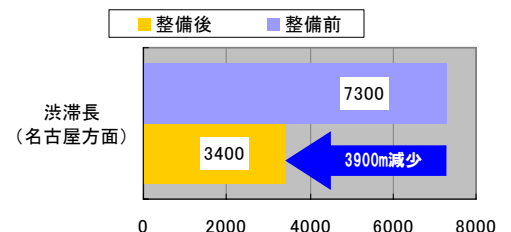
●静清バイパス(千代田上土IC～唐瀬IC)4車線化の効果



●下り方向(名古屋方面)のランプ交通量の推移



●下り方向(名古屋方面)の渋滞長の変化



(3) 平成18年度事業の業績計画

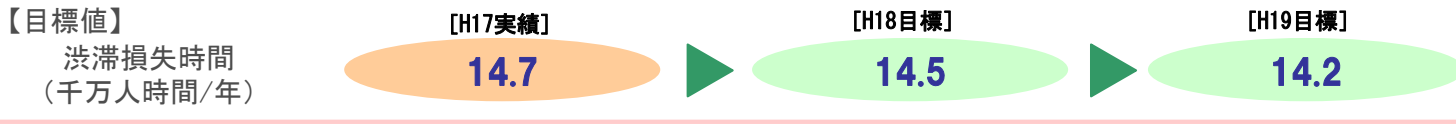
① 渋滞の緩和・解消

◆ 交通容量の拡大等による渋滞対策の実施

・平面交差点の立体化、渡河断面などのボトルネック改善や、幹線道路の4車線化(静岡バイパス4車線化)などの交通容量の拡大により、交通渋滞の改善・緩和をはかります。

◆ 第4次渋滞対策プログラムの策定

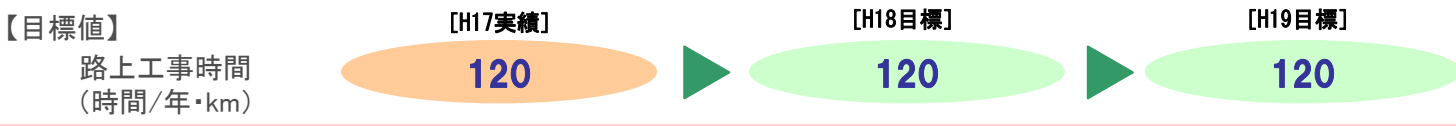
・概ね10年後を完了年次とした「静岡県第4次渋滞対策プログラム」を策定し、渋滞損失時間の削減目標をたてるとともに、渋滞解消に向けてハード、ソフト両面から渋滞対策を立案します。



② 路上工事の縮減

◆ 効率的な道路工事(工事規制)の実施

・バイパス部と現道部における道路工事の規制日を調整いたします。
・年度当初における工事発注時期の調整や現場工事での工程調整を行います。



平成18年度の取り組み事例

～静岡県第4次渋滞対策プログラムの策定～

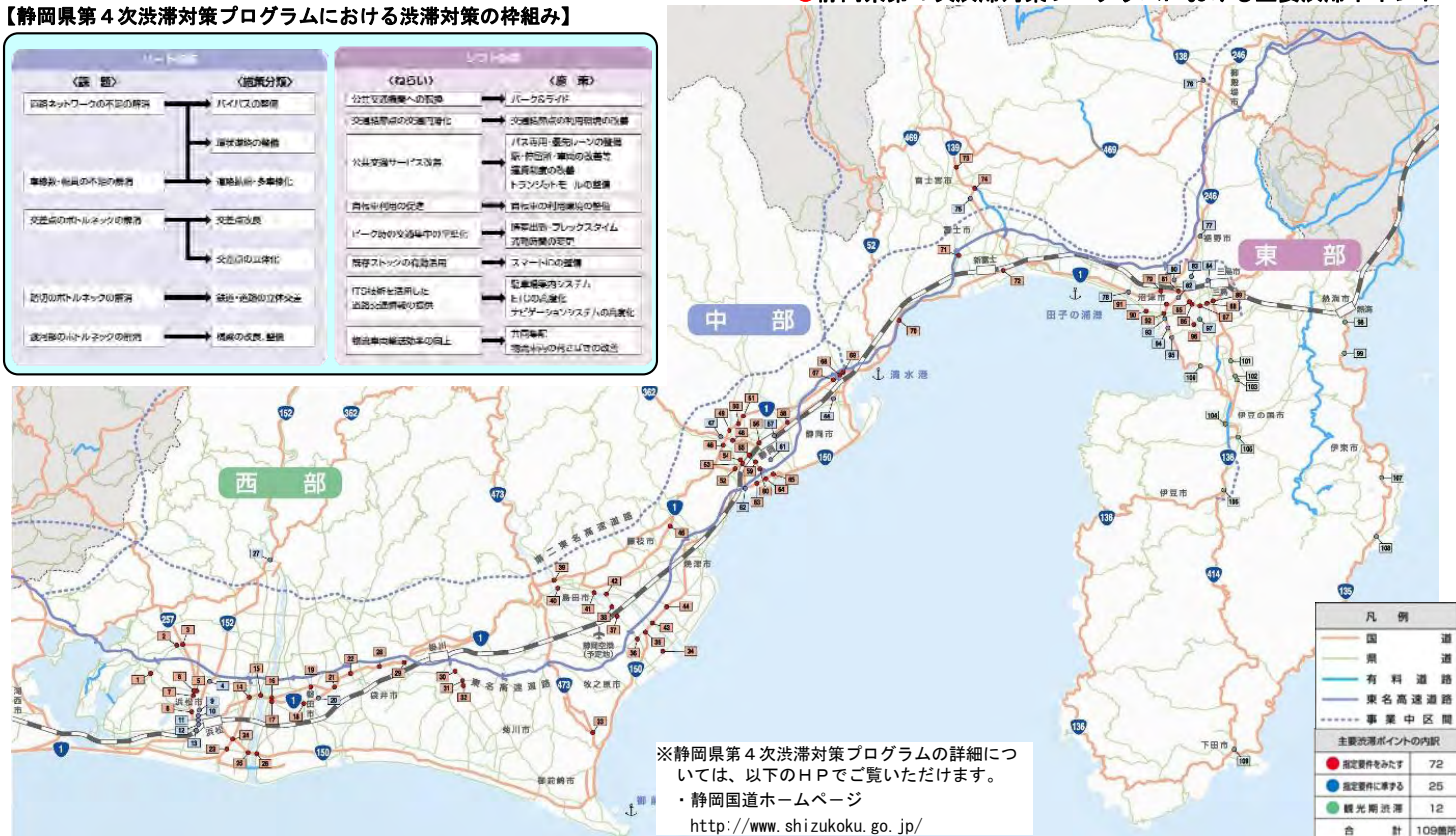
◇静岡県道路交通渋滞対策推進協議会では、「静岡県第3次渋滞対策プログラム」のフォローアップや現在の道路状況を調査分析を行い、主要渋滞ポイント(109箇所)・主要渋滞区間(117区間)の選定を行い、「静岡県第4次渋滞対策プログラム」を策定しました。

◇今後はこの「静岡県第4次渋滞対策プログラム」に基づき、選定した主要渋滞ポイントにおいて、概ね10年後を目処に重点的かつ総合的な渋滞対策を推進します。

【静岡県第4次渋滞対策プログラムにおける渋滞対策の枠組み】



● 静岡県第4次渋滞対策プログラムにおける主要渋滞ポイント



●平成18年度に実施する主な対策～渋滞対策

	主な事業箇所	路線名	延長等	完成目標年度	施策
1	八坂～鳥坂IC間の4車線化	国道1号静岡バイパス	4.1km	平成19年度	バイパス整備 (通過交通の排除)
2	昭府立体事業(暫定2車線)	国道1号静岡バイパス	1.4km	平成19年度	
3	(仮称)岡宮IC(東名沼津IC)～(仮称)塚原IC間の整備	伊豆縦貫自動車道 (東駿河湾環状道路)	10.0km	平成19年度	
4	磐南バイパス	国道150号	2.2km	平成19年度	
5	修善寺IC～(仮称)大平IC間の整備	伊豆縦貫自動車道 (天城北道路)	1.6km	平成19年度	観光渋滞の解消
6	国道473号 倉沢IC～沢水加IC間の整備	金谷御前崎連絡道路	4.4km	平成19年度	地域高規格道路の 整備推進
7	国道150号 大沢IC～須々木IC間の整備	金谷御前崎連絡道路	3.2km	平成18年度	
8	静岡市葵区下～静岡市葵区加藤島区間の整備	静岡南北道路 (主)山脇大谷線)	約3km	整備促進	
9	スマートICの社会実験(富士川SA)	東名高速道路	1箇所	平成19年度本格運用	有料道路の利用促進
10	スマートICの社会実験(遠州豊田PA)	東名高速道路	1箇所	平成19年度本格運用	
11	中野新田交差点	(主)中島南安倍線	1箇所	平成18年度	ボトルネック箇所の改良
12	手越交差点	(一)藤枝静岡線	1箇所	平成18年度	
13	川尻橋交差点	(主)焼津榛原線	1箇所	平成18年度	
14	熊坂狩野川公園入口交差点	国道136号	1箇所	平成18年度	
15	沼津IC南交差点	国道246号	1箇所	平成19年度	
16	反射炉入口交差点	国道136号	1箇所	平成19年度	
17	浜松バイパス(新天拡幅)	国道1号	3.0km	平成19年度	
18	富士市宮島付加車線の整備	国道1号	1.2km	平成19年度	

※開通予定は、平成18年度予算とほぼ同程度の道路整備予算が確保されることを前提としています。今後、予算規模が大きく変動した場合など適宜見直しを行います。

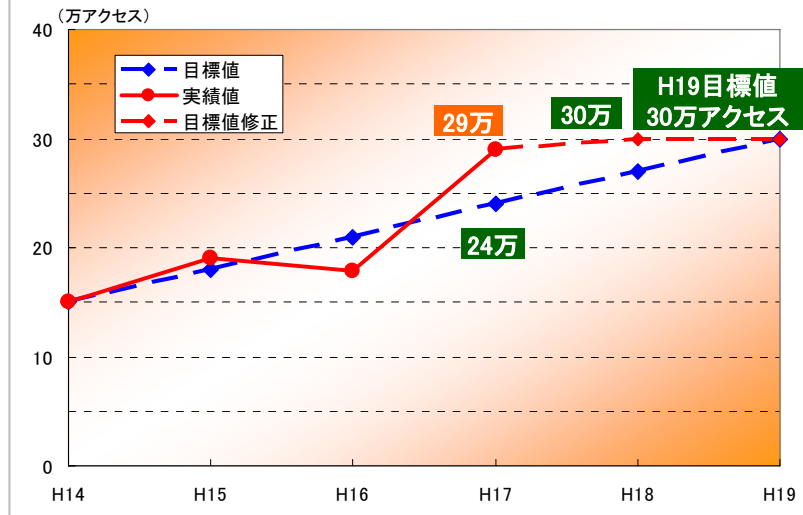


(1) 平成17年度事業の達成度報告

◇道路行政における取り組みの透明性を確保するとともに、県民の皆さんへの説明責任を果たし、わかりやすい道路行政を実現するために、ホームページ等を活用した情報提供に積極的に取り組んだ結果、ホームページのアクセス数は約10万アクセス増加しました。

- ホームページアドレス(URL)**
- 国土交通省 静岡国道事務所 : <http://www.shizukoku.go.jp/>
 - 国土交通省 沼津河川国道事務所 : <http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/>
 - 国土交通省 浜松河川国道事務所 : <http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/>
 - This伊豆ナビ : <http://www.sui2.com/>
 - 静岡県 : <http://www.pref.shizuoka.jp/>
 - 静岡市 : <http://www.city.shizuoka.jp/>

● 静岡県内国土交通省3事務所のホームページアクセス件数の推移



平成17年度の取り組み事例

～観光地ならではの情報提供～ 【スマートモビリティ伊豆社会実験】

◇伊豆地区ではITS※1を活用したイベント時の移動支援情報を提供して、パーク&トレイン※2の促進やピーク時間を避けることによる国道135号の負荷軽減、一極集中を避けるような分散型の周遊観光の促進等による渋滞緩和を目指し、「スマートモビリティ伊豆社会実験」として実施しました。

※1 ITS: 情報通信技術を用いて、交通事故、渋滞といった道路交通問題を解決するためのシステム
 ※2 パーク&トレイン: 駅に整備した駐車場に車で来て、鉄道で目的地まで移動するシステム

(1) 社会実験の概要

① 実施内容

インターネット・携帯電話・現地情報板・道の駅のリクエスト端末に河津桜まつりの情報を提供

◇ 提供内容

- ・ 渋滞情報
- ・ 所要時間情報 (道路・鉄道)
- ・ 駐車場満空情報
- ・ シャトルバス運行情報

② 対象イベント

第16回河津桜まつり

③ 実験期間

平成18年2月10日～平成18年3月10日

④ 実施主体

伊豆地域ITS推進協議会

● 情報提供のイメージ



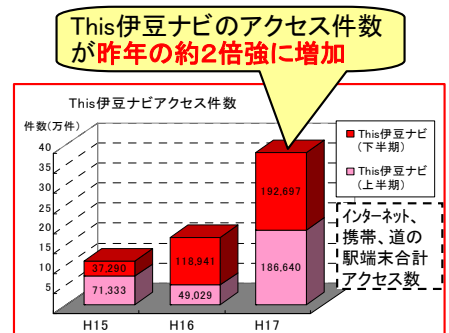
(2) 社会実験の効果

社会実験により利用者のサービスレベルが向上し、設定した7つの目標値に対し、下に示す効果を得ることができました。今後、地域が主体となって本格運用を行うような体制づくりを行っていきます。

● 社会実験の効果

社会実験における7つの目標値	社会実験の結果
① 情報利用の満足度向上 (利用者) (90%を目標: アンケート)	Webアンケート回答者の95%以上が「役立つ」or「やや役立つ」と回答
② パーク&トレインの利用促進 (昨年度ピーク時発売枚数<349枚>の30%増)	前回よりピーク時1.6倍の利用
③ 行動変化割合10% (日、時間、手段、ルート)	アンケートで約15%の方が公共交通に転換
④ 駐車場情報利用満足度 (90%) (河津桜まつり実行委員会へのアンケート)	河津桜まつり関係者の100%が役立つと回答
⑤ うろつき交通の削減90% (現地来訪者アンケート)	現地来訪者の約80%が1つ目の駐車場に停車できたと回答
⑥ ピーク時における所要時間短縮 (30分短縮を目標)	時間帯により集中していた交通が平準化され約20分短縮
⑦ This伊豆ナビ・アクセス数倍増 (平成15年2月アクセス数=約8300)	約6倍のアクセスを記録

● this 伊豆ナビの年間アクセス数

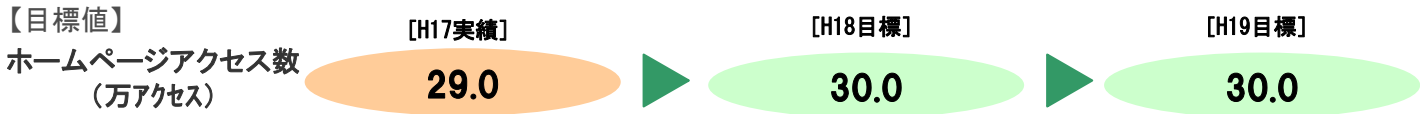


出典: H17年度沼津河川国道事務所資料

(2) 平成18年度事業の業績計画

◆県民ニーズを反映したホームページづくり

・ホームページの利用しやすさを向上するために、ホームページの改良や内容の充実を図ります。



平成18年度の取り組み事例

～とるば(フォトスポット&パーキング)

◇静岡県には富士山や伊豆半島などの美しい山や海、河川の風景を楽しみ、これらを撮影できる道路沿いの撮影スポットが数多くあります。しかし、道沿いから見える美しい景色を撮影できる場所についての情報提供がないため、撮影スポットや駐車場を探すための迷走・脇見運転・Uターン・路肩駐車等が発生し、危険を伴うことがあります。

◇このようなことを背景として、安全に駐車できる駐車場と、そこから歩いていける撮影スポットがセットになった場所「フォトスポット&パーキング(とるば)」の情報提供を行うこととしました。「とるば」の情報提供を行うことにより、迷惑駐車や迷走運転の防止、これにとまらぬ渋滞・交通事故の減少も期待されます。



●情報提供のイメージ(道の駅「朝霧高原」)

地図情報

この場所から

【撮影スポット情報】	この駅、朝霧高原、富士山の絶景を撮影できるスポットです。
撮影スポットの説明	この駅、朝霧高原、富士山の絶景を撮影できるスポットです。
撮影日	2023/4/10
撮影時間帯	午前
おすすめの撮影時間	夏
撮影者のコメント	富士山はきれいでした

【道の駅情報】	
名称	道の駅 朝霧高原
所在地	静岡県富士宮市朝霧452-14
問合せ先	静岡県道徳推進課 朝霧支所 054-359-8024
交通アクセス	東名高速道路第二ICから国道304号線 車で45分
駐車台数	85(うち大車専用11台) 無料(朝霧高原2台)
利用種別	第4

◇「とるば」を募集しています！

- ・優れた風景があり、観光客の方が写真撮影を楽しめる場所であること
 - ・観光客のための安全・快適な駐車場があり、撮影スポットまで安全に移動ができる場所であること
- 地域のみなさまからの投稿について、現地調査を行い要件が確認されればホームページなどで情報提供します。
- 投稿方法等の詳しい情報は以下のホームページを参照してください

中部とるばホームページ: <http://chubu.torupa.jp/>

静岡県内の「とるば」(平成18年12月現在)





(お問い合わせ先)

(平成18年12月)

◆国土交通省 中部地方整備局

静岡国道事務所調査課

〒420-0054 静岡市葵区南安倍2-8-1

TEL : 054-250-8904

沼津河川国道事務所調査第二課

〒410-0822 沼津市下香貫外原3244-2

TEL : 055-934-2010

浜松河川国道事務所調査第二課

〒430-0811 浜松市名塚町266

TEL : 053-466-0117

◆静岡県土木部道路企画室

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6

TEL : 054-221-2938

◆静岡市建設局道路部道路計画課

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1

TEL : 054-221-1478

◆『静岡の“みちサービス”の向上を目指して』（平成17年度 達成度報告書/平成18年度業績計画書）は下記のホームページで公開しています。

◆この冊子や静岡の道づくりに対するご意見は下記のメールアドレスにお寄せ下さい。

国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所

Email : sizukoku@cbr.mlit.go.jp

URL : <http://www.shizukoku.go.jp/>